



独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校

令和2年度 学校要覧

目次

◆ 校長挨拶……………	P 1	◆ 学生相談室・保健室……………	P28
◆ 校章・シンボルカラー・校歌……………	P 2	◆ ものづくり教育センター……………	P28
◆ 沿革……………	P 3	◆ 総合情報センター……………	P28
◆ 教育理念……………	P 4	◆ 産学民連携テクノセンター……………	P29
◆ 教育目的・目標（本科）……………	P 4	◆ キャリア支援室……………	P29
◆ アドミッションポリシー……………	P 4	◆ 学生寮……………	P30
◆ 各学科・専攻科の3つの方針……………	P 5	◆ 学生会……………	P31
◆ 主な行事……………	P 8	◆ 入学・在学状況……………	P32
◆ 組織……………	P 9	◆ 卒業・修了状況……………	P33
◆ 一般科目……………	P11	◆ 研究活動……………	P34
◆ 学科		◆ 社会貢献……………	P35
機械工学科……………	P13	◆ 課外活動の主な実績……………	P35
電気電子工学科……………	P15	◆ 国際交流……………	P36
制御情報工学科……………	P17	◆ 大学等間交流協定……………	P37
生物応用化学科……………	P19	◆ 技術者教育プログラム……………	P38
材料システム工学科……………	P21	◆ 財務状況……………	P39
◆ 専攻科……………	P23	◆ 施設状況……………	P40
◆ 図書館……………	P27	◆ アクセス……………	P42



筑後川（手前）の畔に位置するキャンパス全景

校長挨拶



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

校長 本庄 春雄

久留米工業高等専門学校は戦前の昭和14年開設の旧制久留米高等専門学校に始まります。戦後の学制改革を受けて昭和24年に九州大学久留米工業専門学校に包括された後、昭和33年に久留米工業短期大学に改組され、昭和36年には全国初の5年制の高等工業教育のモデル校として久留米工業短期大学附属工業高等専門学校に改組されました。その後、間もなくの昭和39年に現在のスタイルとしての久留米高専が設立されることとなりますが、昭和、平成、令和の半世紀以上の歴史を有して今に至っています。

我が国の高等教育機関としての久留米高専で学んだ学生は、高い専門性を有する創造的技術者となって持続可能な社会の実現を目指しますが、幅広い教養も修得して人類の福祉や平和のために貢献するという意識も持ち合わせます。大学とは違って若い15才の時から入学し、大学受験に惑わされることなく、環境問題などの人類課題の解決を意識しながら学習することはとても有意義なことです。本校はそのための教育理念として、自立の精神、創造性、広い視野、豊かな心をかかげ、それを実現するための教育目的・目標や3つのポリシー（入学受け入れ方針：admission policy、教育課程編成・実施方針：curriculum policy、卒業認定・学位授与方針：diploma policy）を定めてホームページなどで公表しています。

5年一貫教育としての本科は機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料システム工学科の5学科で構成され、本科後の2年間の進学専攻科として、機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の2専攻を有しています。教員の多くは、九大や東工大などの全国の大学からの出身や企業経験者で構成され、その教育・研究実績を基に優れた学生教育にあたっています。

本校への志願状況は毎年良好で、福岡市、久留米市を中

心とした県内各地からの入学者が8割台、佐賀県からが1割台となっています。本校での一日体験入学や福岡市と佐賀市で開催される学校説明会では多くの参加者で盛況となっています。学校生活では勉学に勤しむことはもちろんですが、ロボットコンテスト部やプログラミングラボ部などの文化部、硬式野球部やバレーボール部などの体育部があり、全国大会で受賞するなどの活躍をしています。高専の特徴の1つは寮があることですが、本校も男子寮の「筑水寮」と女子寮の「つつじ寮」が整備され、アジア圏からの留学生も含めて約200名弱の寮生が学生生活をエンジョイしています。本科、専攻科ともに、修了後の就職や進学状況は大変、良好で、修了生は大手企業や地元の企業への就職、全国の国公立大学などへの編入学・進学で活躍をしています。

久留米高専は、産業界や地域・社会との連携、大学などの学術・研究機関との協力でその使命を果たしております。例えば、久留米市との「事業協力に関する協定書」、一般社団法人日本歯車工業会、一般社団法人日本ゴム協会九州支部、久留米商工会議所との連携・協力協定の締結、久留米市内の4大学・短期大学と本校からなる「高等教育コンソーシアム久留米」、「テクノネット久留米」での産学民連携、九大大学院総合理工学府などとの連携・協力があげられます。

近年の急激な科学技術の進展は国の産業構造や我々の社会そのものを変貌させており、世界であろうと地域であろうと、グローバル化された社会で活躍する学生を育てる使命が本校にはあります。今後とも、久留米高専の教育・研究活動や学校運営に対して、引き続き、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

校章・シンボルカラー・校歌

1. 校章



カラー：DIC249（緑色部分）、DIC208（黄色部分）

久留米市は、つつじの名所として広く知られており、本校は、春ともなればつつじの花が色彩豊かに校庭いっぱいに咲き競い、咲き乱れます。

校章はそのつつじの葉を形どったものであり、また葉脈は、学校のすぐ横を流れる九州一の大河である筑後川の流れを表象したもので、たゆまなく流れる川の流れは、たゆまなく学びの道に進みゆく姿を表したものです。

2. シンボルカラー

学校・学科名	色見本	色名称／DIC 番号
学校		緑 色 / 249
機械工学科		黄 色 / 166
電気電子工学科		紺 色 / 184
制御情報工学科		空 色 / N877
生物応用化学科		赤 色 / 198
材料システム工学科		紫 色 / 193

3. 校歌

- 筑紫なる 清き山水 あつめきて 流れ流るる 筑後川
ひる夜となく 流れ流るる 我らも進まん学びの道を
学びの道を!!
- 春くれば つつじの花は 日に映えて 我が校庭に
咲き競う いのちの限り 咲き競う
我らも咲かさん技術の花を 技術の花を!!
- 紺碧の 空に聳ゆる 耳納山 永遠にゆるがで 世を譲る
雨降る日にも 嵐の夜も
我らも築かんゆるがぬものを ゆるがぬものを!!

沿革

久留米工業高等専門学校は、昭和14年に官立の実業専門学校である久留米高等工業学校が開校されたことに起源を發します。同校は、高等教育改革の一環として昭和19年に久留米工業専門学校へ改称し、戦後の学制改革において昭和24年に九州大学へ包括されて九州大学久留米工業専門学校となった後、最後の卒業生を送り出した昭和26年に閉校となりました。

その後、昭和33年に久留米工業短期大学が、そして昭和36年に久留米工業短期大学附属工業高等学校が各々設立され、ここに5年制の高等工業教育のモデルケースが全国で初めて誕生しました。

年表



久留米高等工業学校・
久留米工業専門学校

昭和14年	5月	久留米高等工業学校設立 (機械科、精密機械科、工作機械科、 鋳山機械科、採鉱科) 初代校長 小林 俊次郎 就任 第1回入学式挙行
昭和16年	12月	第1回卒業式挙行
昭和17年	4月	化学工業科設置
昭和19年	4月	久留米工業専門学校に改称
昭和20年	11月	二代校長 大脇 策市 就任
昭和21年	4月	ゴム工業科設置
昭和24年	5月	九州大学に包括され、九州大学久留 米工業専門学校となる
昭和26年	3月	第10回卒業式挙行 九州大学久留米工業専門学校廃止



久留米工業短期大学

昭和33年	4月	久留米工業短期大学設立 (機械科、工業化学科) 初代学長 九州大学学長 山田 穰 (併任)
	6月	二代学長 九州大学学長 教授 葛西 泰二郎 (併任) 第1回入学式挙行
昭和35年	3月	第1回卒業式挙行
	4月	電気科設置
昭和36年	4月	久留米工業短期大学附属工業高等学 校設立(機械科、電気科、工業化学科) 同校初代校長 九州大学 教授 葛西 泰二郎 (併任) 同校第1回入学式挙行
	5月	三代学長 和栗 明 就任(附属工 業高等学校長を併任)
昭和37年	4月	短期大学、附属工業高等学校に金属 学科設置、機械科1学級増設
昭和39年	3月	附属工業高等学校廃止(在校生は同 年4月設立の久留米工業高等専門学 校に編入学)
昭和41年	3月	第7回卒業式挙行 久留米工業短期大学廃止 卒業生総数 752名

そして、昭和39年に久留米工業短期大学及び同附属工業高等学校から移行する形で現在の久留米工業高等専門学校が設立されました。これに伴い、久留米工業短期大学附属工業高等学校は廃止され、その在校生は久留米工業高等専門学校へ編入されましたが、その結果、昭和41年に全国で初めて高等専門学校の卒業生を輩出するに至っています。

また、平成5年には九州の高等専門学校で最初に専攻科を設置しました。



久留米工業高等専門学校

昭和39年	4月	久留米工業高等専門学校設立(機械 工学科2学級、電気工学科、工業化 学科、金属工学科) 初代校長 和栗 明 就任 第1回入学式、編入学式挙行
昭和41年	3月	第1回卒業式挙行
昭和49年	10月	創立10周年記念式典挙行
昭和51年	7月	二代校長 園田 正明 就任
昭和59年	4月	三代校長 西川 兼康 就任
	10月	創立20周年記念式典挙行
昭和62年	4月	金属工学科を材料工学科へ改組
平成元年	4月	四代校長 長谷川 修 就任
平成3年	4月	機械工学科2学級のうち1学級を制 御情報工学科へ改組
平成5年	4月	専攻科設置 専攻科第1回入学式挙行
平成6年	4月	五代校長 谷口 宏 就任
	10月	創立30周年記念式典挙行
平成7年	3月	専攻科第1回修了式挙行
平成8年	4月	工業化学科を生物応用化学科へ改組
平成11年	4月	六代校長 柳 謙一 就任
平成13年	4月	電気工学科を電気電子工学科へ名称 変更
平成16年	4月	独立行政法人国立高等専門学校機構 設置
平成17年	4月	七代校長 前田 三男 就任
平成22年	4月	八代校長 上田 孝 就任
平成26年	11月	創基75周年・高専創立50周年記 念式典挙行
平成27年	4月	九代校長 三川 譲二 就任
平成29年	4月	材料工学科を材料システム工学科に 名称変更
令和2年	4月	十代校長 本庄 春雄 就任

教育理念

自立の精神と創造性に富み、

広い視野と豊かな心を兼ね備えた、

社会に貢献できる技術者の育成



教育目的・目標(本科)

◆ 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。

1. 自立の精神と創造性に富んだ技術者
2. 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
3. 社会に貢献できる技術者

◆ 教育目標

1. 広い視野と豊かな心の涵養
2. 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
3. 専門に関する基礎知識と技術の修得
4. 問題を分析し、解決する能力の育成
5. 自ら学び、工夫する能力の育成
6. コミュニケーション能力の育成

本校共通のアドミッションポリシー

◆ 本 科

1. 技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 専攻科

1. 科学技術に対する強い探求心を持ち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身に付けている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている人

各学科及び専攻科の3つの方針

本校は各学科及び専攻科においてディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受入の方針）の三つの方針を掲げています。

機械工学科

ディプロマポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。

そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。

そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 機械工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。

そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 機械技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

電気電子工学科

ディプロマポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術 (ICT)、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い電気電子工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 電気電子工学に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 電気電子技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

制御情報工学科

ディプロマポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関連する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い制御工学と情報工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 制御工学と情報工学に関する専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。

そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 制御情報技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

生物応用化学学科

ディプロマポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い応用化学や生物化学に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 化学工業やバイオ工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。

そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 生物化学技術者または応用化学技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

材料システム工学科

ディプロマポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科目を多く配置し、高学年に進むに従い工業材料に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する材料工学の専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような人を求めています。

1. 材料技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 専攻科 機械・電気システム工学専攻

ディプロマポリシー

機械・電気システム工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的技術者として、機械工学、電気電子工学または制御情報工学のコースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び機械・電気システム工学専攻で定めた専門必修科目、更に機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。

評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、機械工学、電気電子工学または情報工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

アドミッションポリシー

次のような入学者を求めています。

1. 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身につけている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

◆ 専攻科 物質工学専攻

ディプロマポリシー

物質工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的技術者として生物応用化学または材料工学コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定められた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。

専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び物質工学専攻で定めた専門必修科目、更に生物応用化学または材料工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、応用化学または材料工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

アドミッションポリシー

次のような入学者を求めています。

1. 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身につけている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

主な行事（令和2年度予定）

前期

4月

開寮
入学式、始業式、クラス写真撮影、オリエンテーション
合宿研修（本科1年生）、数学診断テスト
TOEIC IPテスト、英語外部評価テスト（本科1年生）
定期健康診断
車両通学講習会
開校記念日



入学式



合宿研修

5月

学生大会、後援会総会・保護者懇談会
クラスマッチ
公開授業
防災総合訓練
ケータ安全教室（本科1年生）
キャリアアップセミナー



クラスマッチ

6月

前期中間試験、専攻科入学試験（前期）
英語外部評価テスト（本科3年生）
文化部発表会
九州沖縄地区高専体育大会（夏季）
いじめ防止講習会
ビジネスマナー講習会（本科4年生）

7月

九州沖縄地区高専体育大会（夏季）
前期末試験



九州沖縄地区
体育大会

8月

前期末試験
閉寮
夏季休業
一日体験入学
全国高専体育大会（夏季）



一日体験入学

9月

学校説明会（佐賀県会場）
開寮
工場見学旅行（本科4年生）
学校説明会（福岡県会場）
夏季休業



学校説明会

後期

10月

全校集会（本科生）、専攻科入試（後期）
九州沖縄地区英語プレゼンテーションコンテスト
九州沖縄地区高専ロボットコンテスト
全国高専プログラミングコンテスト
学校説明会・見学会
入試説明懇談会
TOEIC 公開テスト
キャリアアップセミナー
暴力団排除教育（本科1年生）
メンタルヘルス講習会



九州沖縄地区
ロボコン大会

11月

高専祭
学校説明会
九州沖縄地区高専体育大会（冬季）
編入学試験
TOEIC 公開テスト
後期中間試験



高専祭

12月

後期中間試験
クラスマッチ、学生大会
高専フォーラム
冬季休業
閉寮

1月

全国高専体育大会（冬季）、高専シンポジウム
TOEIC 公開テスト
就職セミナースタートアップ講習
入学者選抜試験（推薦）
全校集会、予餞会、冬季休業、開寮

2月

後期末試験
入学者選抜試験（学力）
特別教育期間
救命救急講習会

3月

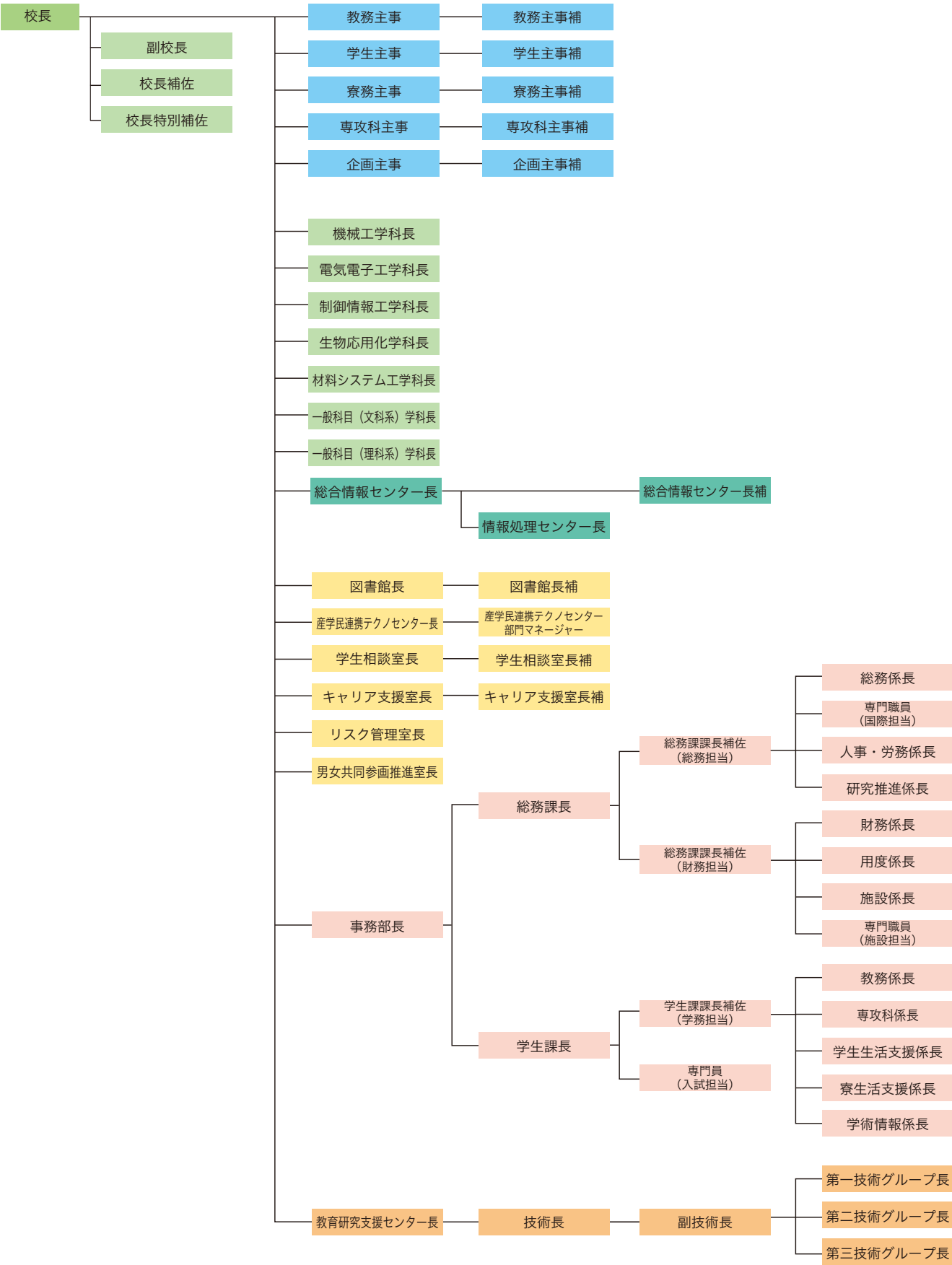
TOEIC 公開テスト
特別教育期間、学年末休業
終業式、卒業式・修了式



卒業式・修了式

組織

1. 組織図



2. 教職員数（令和2年5月1日現在）

(1) 教員

	校長	教授	准教授	講師	助教	合計
標準人員枠（定員）	1	35	32	-	8	76
実行人員枠（現員）	校長	1	-	-	-	1
	機械工学科	-	6	4	0	11
	電気電子工学科	-	5	3	1	10
	制御情報工学科	-	4	3	0	10
	生物応用化学科	-	5	4	1	12
	材料システム工学科	-	4	3	1	10
	一般科目（文科系）	-	4	6	0	11
	一般科目（理科系）	-	3	5	1	10
合計	1	31	28	4	11	75

※助教の現員数にはフルタイム再雇用教員（特任教授）を含む。 ※現員には高専間人事交流等により転出した教員を含まない。

教員の年齢構成

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
60歳～	9	0	0	0	9
50歳～59歳	17	9	0	0	26
40歳～49歳	5	16	0	0	21
30歳～39歳	0	3	4	6	13
20歳～29歳	0	0	0	3	3
合計	31	28	4	9	72

※校長及び再雇用教員は除く

(2) 職員

	事務部長	課長	専門員 課長補佐	専門職員 係長	技術長	技術専門員	看護師	一般職員等 技術・	合計
標準人員枠（定員）	1	2	4	9	1	2	1	25	45
実行人員枠（現員）	事務部	1	-	-	-	-	-	-	1
	総務課	-	1	2	6	-	-	0	17
	学生課	-	0	2	3	-	-	1	11
	教育研究支援センター	-	-	-	-	1	1	0	16
合計	1	1	4	9	1	1	1	27	45

※「技術・一般職員等」とは、技術専門職員・技術職員・主任・一般職員・フルタイム再雇用職員等をいう。

3. 管理職等教職員（令和2年5月1日現在）

職名	氏名	職名	氏名
校長	本庄 春雄	一般科目（文科系）学科長	安部 規子
教務主事・副校長	江崎 昇二	一般科目（理科系）学科長	酒井 道宏
専攻科主事・副校長	奥山 哲也	総合情報センター長	加藤 直孝
学生主事・校長補佐	田中 大	図書館長	富岡 寛治
寮務主事・校長補佐	中嶋 裕之	産学民連携テクノセンター長	中武 靖仁
企画主事・校長補佐	黒木 祥光	学生相談室長	福田かおる
機械工学科長	石丸 良平	キャリア支援室長	池田 隆
電気電子工学科長	越地 尚宏	事務部長	吉田 規雄
制御情報工学科長	小田 幹雄	総務課長	世利 政則
生物応用化学科長	梶 隆彦	学生課長	吉田 規雄（併任）
材料システム工学科長	川上 雄士	教育研究支援センター長	江崎 昇二（併任）

一般科目

1. 概略

高専教育の特色は5年間の一貫した教育を行うことです。一般科目は専門科目と相まって、優れた技術者の育成を期するため、広い視野に立った社会人として必要な教養と創造性に富む、個性豊かな人間形成を目標とします。

一般科目のうち、文科系科目では、国際感覚を持って活躍できる技術者として必要な教養とコミュニケーション能力の養成を、また理科系科目では、数学、物理、化学等、専門工学を修得するための基礎となる十分な能力を培うことを主眼にして教育が行われています。

2. 教員

(1) 一般科目 (文科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
安部 規子	教授／学科長	博士（教育学）	第二言語習得	英語 2、応用英語 1、応用英語 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、実践英語Ⅲ
福田かおる	教授	Doctor of Philosophy	社会人類学、英国文化	英語 1、英語表現 1、応用英語 1、応用英語 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
小林美恵子	教授	博士（文学）	近現代日本女性文学	沼津高専へ人事交流中
龍頭 信二	教授	修士（教育学）	運動生理学	保健体育 1、保健体育 3、生涯スポーツ 1、生涯スポーツ 2
金城 博之	教授	Master of Arts	英米文学、英語教育学	英語 2、英語 3、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
徳永 正尚	准教授	修士（教育学）	英語教育学	英語 1、英語表現 1、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
藍澤 光晴	准教授	博士（経済学）	経済史	現代社会、人文社会科学探求 1、人文社会科学探求 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
横溝 彰彦	准教授	Master of Arts in Speech Communication	コミュニケーション学	英語 1、応用英語 1、応用英語 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、実践英語Ⅰ、実践英語Ⅱ
岡本 和也	准教授	修士（文学）	中世東地中海世界の歴史	世界史、人文社会科学探求 1、人文社会科学探求 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
鴨川 都美	准教授	博士（文学）	日本近現代演劇／文学	国語 2、リテラシー実践、日本語、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
赤塚 康介	准教授	博士（理学）	運動生理学	保健体育 1、保健体育 2、生涯スポーツ 1、生涯スポーツ 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
常木 佳奈	助教	修士（文学）	日本文学	国語 1、リテラシー実践
米永 正敏	嘱託准教授	学士	英語教育	英語 2、英語 3、英語表現 1
非常勤講師			15 名	

(2) 一般科目 (理科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
酒井 道宏	教授／学科長	博士（数理学）	代数的位相幾何学	数学 2A、数学 3A、数学 3B、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、応用数理Ⅲ
篠島 弘幸	教授	博士（工学）	材料物性・量子エレクトロニクス	物理、応用物理 1、応用物理実験、統計力学及び熱力学
宮本 久一	教授	工学博士	化学	化学 1、化学 2、化学実験、応用化学実験、専攻科研究基礎、分子機能化学
山崎 有司	准教授	修士（理学）	薄膜	物理、応用物理 1、応用物理実験
菰田智恵子	准教授	博士（理学）	一般位相幾何学	数学 2A、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
高橋 正郎	准教授	修士（理学）	微分幾何	数学 1、数学 3B、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
谷 太郎	准教授	博士（理学）	素粒子論	物理、応用物理 1、応用物理 2、応用物理実験、現代物理学
黒飛 敬	准教授	博士（理学）	化学	化学 1、化学 2、化学実験、応用化学実験、専攻科研究基礎、分子機能化学
沖田 匡聡	講師	博士（数理学）	偏微分方程式論	数学 1、数学 2B、数学 3A、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、応用数理Ⅰ
中村 駿介	助教	博士（理学）	グラフ理論	数学 1、数学 2B、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
非常勤講師			5 名	

3. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
デジタル語学演習システム Adill-1000 System 1 式	LL 教室で実施する英語授業の多様な活動を可能にし、本校の英語教育の質を向上させている。
英語 e-learning 教材 NetAcademy Next	Power Words コース他を自宅からでも学習することができ、学生の英語力の向上に寄与している。
英語学習用 PC 24 台	授業で LL 教室と PC 学習室でグループ分けし、少人数での活動が可能になる。
赤外分光光度計	化学実験の際に、合成した有機化合物の官能基を測定できる。
旋光度計	化学実験の際に、光学活性な化合物の旋光度を測定できる。

4. 教育課程（令和2年度1年生基準）

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国語	国語 1	4	4					
		国語 2	2		2				
		リテラシー実践	2			2			留学生は履修しない
	社会	地理	2	2					
		世界史	2		2				
		現代社会	2		2				
		人文社会科学探求 1	1			1			留学生は履修しない
		人文社会科学探求 2	1			1			留学生は履修しない
	数学	数学 1	6	6					
		数学 2A	4		4				
		数学 2B	2		2				
		数学 3A	4			4			
		数学 3B	2			2			
	理科	物理	4		4				
		化学 1	3	3					C は 4 単位
		化学 2	2		2				C は 1 単位
		生物	1	1					A、E、S、M
		地学	1	1					A、E、S、M
		生物学 1	2	2					C
	英語	英語 1	4	4					
		英語表現 1	2	2					
		英語 2	4		4				
		英語表現 2	2		2				
		英語 3	4			4			学修単位
		応用英語 1	2				2		学修単位
		応用英語 2	2				2		学修単位
保健・体育	保健体育 1	2	2						
	保健体育 2	2		2					
	保健体育 3	2			2				
	生涯スポーツ 1	2				2			
	生涯スポーツ 2	1					1		
芸術	美術	1	1					A、S、C、M	
	音楽	1	1					E	
科目教養	リベラルアーツ特論 1	1				1			
	リベラルアーツ特論 2	1				1			
必修科目修得小計			77	26	26	16	8	1	
選択科目	外国語 第一	中国語	1				1	(1)	いずれか 1 単位を 4 年次に修得。 (4 年次修得できなかった場合は、 5 年次に修得可)
		韓国語	1				1	(1)	
		フランス語	1				1	(1)	
	選択科目修得小計			1				1	(1)
一般科目修得合計			78	26	26	16	10		

※ A: 機械工学科 E: 電気電子工学科 S: 制御情報工学科 C: 生物応用化学科 M: 材料システム工学科

機械工学科

1. 概略

機械工学科は、以下の教育目的・目標の下、主に機械設計、機械加工、機械の4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）に関する教育を行っています。

最先端のものづくりのため、3次元設計・解析・製造過程のデジタルエンジニアリング教育を実践しているのが本学科の特徴です。

卒業生は、主に航空・宇宙、自動車、重工業、エネルギー・環境、ロボット、電力、鉄鋼、電機、化学、医薬品・食品など広範囲な産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。

(2) 教育目標

機械技術者としての素養を備え、基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
石丸 良平	教授／学科長	博士（工学）	歯車工学	専門基礎（機械工学）、機械製図3、機械設計製図、機械設計法2、機械要素設計実験、短期インターンシップ
原田 豊満	教授	博士（工学）	材料力学	機械工学概論（電気、制御）、機械工学実験、材料力学2、機械要素設計実験、産業財産権特論、弾塑性力学
和泉 直志	教授	工学博士	機械要素	機械加工実習1、機械工学概論（電気、制御、生化）、精密加工学、機械設計法1、設計システム工学、トライボロジー解析学
中武 靖仁	教授	博士（工学）	環境エネルギー工学	機械加工実習3、機械設計製図、伝熱工学、地球環境と現代生物学
谷野 忠和	教授	博士（工学）	流体工学	応用数学1、応用数学2、流体工学、四力学演習、流体機械、機械要素設計実験、応用流動工学、先端工学特論
田中 大	教授	博士（工学）	熱工学	工業英語、工業熱力学、四力学演習、機械要素設計実験、移動現象論、技術英語
青野 雄太	准教授	博士（工学）	材料力学	機械製図2、CAD 演習、材料力学1、四力学演習、材料力学2、破壊力学
中尾 哲也	准教授	博士（情報工学）	制御工学	専門基礎（機械工学）、工業力学、四力学演習、機械力学、機械要素設計実験、制御工学、応用情報処理演習、計算力学
細野 高史	准教授	博士（工学）	特殊加工	機械加工実習1、機械加工実習2、機械加工学、専門基礎（機械工学）、機械加工実習3、応用数学3、品質管理、生産加工学
南山 靖博	准教授	博士（工学）	安全工学	専門基礎（機械工学）、安全工学と工業倫理、機械工学実験、機械工学セミナー、工業倫理
渡邊 悠太	助教	博士（工学）	表面処理	機械製図1、図学、機構学、機械設計法1
全員が担当することを基本とする授業科目				機械工学導入セミナー、機械工学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			8名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
5軸マシニングセンタ	様々な加工を1台で行うことのできる数値制御工作機械。
ワイヤ放電加工機	板状の素材を精度良く複雑な形状に加工する機械。
表面粗さ・輪郭形状複合測定機	製品の表面粗さや輪郭形状を1台で測定できる装置。
精密万能試験機	金属材料の引張試験、圧縮試験、曲げ試験など各種試験ができる試験機。
ディーゼル機関性能実験装置	ディーゼルエンジンの燃費や動力などの性能を評価する実験装置。
赤外線サーモグラフィ	対象物から離れたところから、非接触で温度測定ができる装置。
走査電子顕微鏡	表面構造や表面の形状を高倍率、高分解能で観察する顕微鏡。
3次元プリンタ	3次元のデジタルデータをもとに現実の物体を作る装置。

5. 教育課程

授業科目			単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	専門数学	応用数学1	1				1		学修単位
		応用数学2	1				1		
		応用数学3	2					2	
	専門理科	応用物理1	2			2			
		応用物理2	2			2			
		応用物理実験	2			2			
		化学実験	2		2				
	技術者素養	機械工学導入セミナー	1	1					
		安全工学と工業倫理	1				1		
		工業英語	1				1		
		機械工学セミナー	2					2	
	設計開発	図学	2		2				
		機械製図1	2	2					
		機械製図2	2		2				
		CAD 演習	1			1			
		機械製図3	4			4			
		機械設計製図	4				4		
		機械要素設計実験	2					2	
		機械設計法1	2				2		
		機械設計法2	1					1	
		機構学	1			1			
	力学	工業力学	2				2		学修単位
		機械力学	2					2	
		材料力学1	1			1			
		材料力学2	2				2		
		四力学演習	2				2		
	制御情報	情報リテラシー	1		1				学科横断科目 学修単位
		制御情報工学概論	1			1			
		制御工学	2					2	
	製造技術	機械加工学	1			1			学科横断科目
		精密加工学	1				1		
		品質管理	1					1	
		機械加工実習1	3	3					
		機械加工実習2	3		3				
		機械加工実習3	3			3			
		材料システム工学概論	1			1			
	熱流体	流体工学	2				2		学修単位
		流体機械	2					2	
		工業熱力学	2				2		学修単位
		伝熱工学	2					2	
		機械工学実験	3				3		
		卒業研究	12					12	
	関連専門	電気電子工学概論	1				1		学科横断科目
		化学工学概論	1					1	学科横断科目
科目選択	必修科目修得小計		89	6	10	19	25	29	
	短期インターンシップ		1				1		
	選択科目修得小計		0以上				0以上		
	専門科目修得合計		89以上	6	10	19	54以上		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	6	10	19	25	29	
	選択科目	0以上				0以上		
	小計	89以上	6	10	19	54以上		
総修得単位数		167以上	32	36	35	64以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

電気電子工学科

1. 概略

電気電子工学科では、以下の教育目的・目標の下、主に電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野に関する教育を行っています。

工学基礎を学ぶ講義を始め、実験、インターンシップ、卒業研究等のものづくり重視の実践的教育科目をバランス良く配置し、あらゆる分野の問題解決に取り組める応用力育成を図るのが、本学科の特徴です。

卒業生は、製造業、エネルギー産業に加え、流通、情報産業に渡る広い分野の技術者として活躍しています。

さらに、一定の実務経験により電気主任技術者の国家資格を得ることができます。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

先端技術であるエレクトロニクスと ICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。

(2) 教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
越地 尚宏	教授／学科長	博士（理学）	物性物理、工学教育	総合基礎演習、電磁気学 3、応用数学 1、応用数学 2、応用物理 2、短期インターンシップ、量子力学、専攻科研究基礎
池田 隆	教授	博士（工学）	音声信号処理	電気電子工学基礎、総合基礎演習、専門基礎（電気電子工学）、電気電子演習 3、電気回路 2、電気電子設計、電気電子工学特論、デジタル信号処理、専攻科研究論文
加藤 直孝	教授	博士（政策・メディア）	人工知能	情報リテラシー、プログラミング 1、総合基礎演習、プログラミング 2、電気電子演習 2、プログラミング 3、専門基礎（電気電子工学）、計算機アーキテクチャ 2、情報インフラストラクチャー、情報理論、通信ネットワーク、コンピュータサイエンス、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
平川 靖之	教授	博士（工学）	レーザー分析	総合基礎演習、電気回路 1、電気電子 CAD、専門基礎（電気電子工学）、電気回路 3、応用電磁気学、光エレクトロニクス、技術英語
宮崎 浩一	教授	博士（工学）	プラズマ科学	電気電子演習 1、総合基礎演習、電気電子演習 2、高電圧工学、電気電子実験 2、パワーエレクトロニクス、先端工学特論、プラズマ工学
山口 崇	准教授	博士（工学）	磁気応用・計測	電気電子演習 1、総合基礎演習、論理回路、電気電子実験 2、電気電子実験 3、システム工学、電力応用、専攻科研究論文
ウリントヤ	准教授	博士（工学）	高周波工学	総合基礎演習、電気電子演習 2、マイコン制御、電気電子演習 3、電気電子計測、コミュニケーション、創造工学実験、専攻科研究基礎
村上 秀樹	准教授	博士（工学）	半導体工学	総合基礎演習、電気電子演習 2、確率・統計、電気電子実験 1、電気電子工学概論（機械、材料）、半導体工学、集積回路工学、専攻科研究論文
山本 哲也	講師	博士（工学）	磁気応用・計測	総合基礎演習、電気機器工学 1、専門基礎（電気電子工学）、電気電子演習 3、電磁気学 2、電気機器工学 2、電気電子実験 2、電気電子実験 3、電力システム、専攻科研究論文
原田裕二郎	助教	博士（工学）	集積回路工学	総合基礎演習、制御工学、電子回路、電気電子工学概論（生化）、短期インターンシップ、創造工学実験
全員が担当することを基本とする授業科目				卒業研究
非常勤講師			5 名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
太陽光エネルギーシミュレータシステム	太陽光発電機器の特性をシミュレーションを通して体験・学ぶことができる。
電動機－発電機実験装置	直流機・誘導機・同期機等を実際に操作し特性を理解することができる。
テラヘルツ時間領域分光システム	最新のテラヘルツ分光システムを用いて高度な研究を行うことができる。
プロセス・デバイスシミュレータ	半導体素子の作成工程及び電気特性のシミュレーションを行うことができる。
走査型電子顕微鏡（SEM）	様々な物質や物体の微細構造を直接観察／記録することができる。
labview／ELVIS／ROBOTICS システム一式	20 セット以上保有し電気電子計測／デジタル制御を実践で学ぶことができる。
高電圧発生・測定システム	150kV 程度の高電圧試験（絶縁・放電）を行うことができる。
ネットワーク・アナライザー	様々な高周波回路の周波数特性を観察／測定することができる。

5. 教育課程

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	電気電子基礎	電気電子工学基礎	1					
		電磁気学 1		1				
		電磁気学 2			2			
		電磁気学 3				1		
		電気回路 1		1				
		電気回路 2			2			
		電気回路 3				2		
		半導体工学				2		学修単位
		応用物理 1			2			
		応用物理 2				2		
		確率統計			1			
		応用数学 1				2		
		応用数学 2				2		
	エネルギー・制御	電気機器工学 1			1			
		電気機器工学 2				1		
		パワーエレクトロニクス					2	学修単位
		高電圧工学				2		学修単位
		電力発生工学					1	
		電力システム					1	
		電力応用					1	
		機械工学概論				1		学科横断科目
	コンピュータ・情報通信	制御工学				2		学修単位
		情報リテラシー	1	1				
		プログラミング 1	1	1				
		プログラミング 2		2				
		プログラミング 3			1			
		計算機アーキテクチャ				1		
		論理回路			2			
		電子回路				2		
		マイコン制御			1			
		電気電子計測				2		学修単位
科目選択	工業・設計	情報理論					1	
		情報インフラストラクチャー					1	
		通信ネットワーク					1	
		技術社会の安全と倫理	1			1		
		電気施設管理	1				1	
		コミュニケーション	1			1		
		システム工学	1				1	
		電気電子 CAD	2	2				
		電気電子設計	1				1	
		電気電子材料	1			1		学科横断科目
	実験・実習・演習	生物応用化学概論	1			1		学科横断科目
		化学実験	2		2			
		応用物理実験	2		2			
		総合基礎演習	2	2				
		電気電子演習 1	1	1				
		電気電子演習 2	2		2			
		電気電子演習 3	2			2		
		電気電子実験 1	2			2		
		電気電子実験 2	4				4	
		電気電子実験 3	2					2
		卒業研究	12					12
	必修科目小計		89	6	10	18	30	25
	短期インターンシップ		1				1	
	選択科目小計		0				0	以上
	専門科目修得合計		89	6	10	18	55	以上

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	6	10	18	30	25	
	選択科目	0	以上			0	以上	
	小計	89	6	10	18	55	以上	
総修得単位数		167	32	36	34	65	以上	

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

制御情報工学科

1. 概略

半導体の驚異的な性能向上により、パソコンのみならず、自動車・電化製品を初めとするあらゆる製品にコンピュータが組み込まれています。

制御情報工学科では、このような情報化社会に対応すべく、コンピュータを用いた機械や電子機器（例えばロボット、デジタルカメラ、全自動洗濯機）を制御するメカトロニクス技術および情報工学の専門知識を修得する教育課程を設けています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。

(2) 教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
小田 幹雄	教授／学科長	博士（工学）	知能情報工学	電子計算機基礎、論理回路、ディジタル回路設計、短期インターンシップ、通信工学、計算機アーキテクチャ 1、計算機アーキテクチャ 2、形式言語とオートマトン、技術英語
江崎 昇二	教授	修士（工学）	制御工学	加工実習、シーケンス制御、創造プログラミング演習、制御工学実験
江頭 成人	教授	博士（工学）	制御工学	情報処理基礎、情報リテラシー、パワーエレクトロニクス、制御工学実験、工業倫理と安全、デジタル制御、先端工学特論、システム制御工学
黒木 祥光	教授	博士（工学）	画像処理	創造プログラミング演習、信号処理、応用数学 1、情報倫理、情報通信実験、画像工学、コンピュータグラフィックス
中野 明	准教授	博士（情報工学）	教育工学	プログラミング 2、ソフトウェア工学、データベース基礎、情報処理演習、情報処理 2、コンパイラ、情報通信実験、データベース
松島 宏典	准教授	博士（工学）	高度道路交通システム	加工実習、計算機ネットワーク、創造プログラミング演習、離散数学、応用数学 2、応用情報処理、パターン認識
堺 研一郎	准教授	博士（工学）	スピントロニクス	情報処理基礎、電気回路 1、電磁気学、電気回路 2、電子情報実験、半導体材料工学
田中 諒	助教	博士（工学）	システム制御理論	プログラミング 1、製図、CAD 演習、制御工学 1、創造工学実験
古賀 裕章	助教	博士（工学）	医用画像処理	電子回路、数値計算法、電子情報実験
丸山 延康	特任教授	博士（工学）	映像符号化	プログラミング 3、計算機システム、データ構造とアルゴリズム、オペレーティングシステム、マルチメディア工学、情報通信実験
全員が担当することを基本とする授業科目				制御情報工学概論、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			3名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
電気電子工学実験装置	本科実験科目で利用し、電子回路の理解を深める。
演習用パーソナルコンピュータ 50 台	一日体験入学など多目的で利用し、情報処理、プログラミングなどの理解を深める。
産業用ロボット Performer・MK-3S 1 式	本科実験科目で利用し、産業用多関節型ロボットの制御についての理解を深める。
演習用パーソナルコンピュータ 25 台	本科実験科目で利用し、深層学習について理解を深める。
RaspberryPi 開発キット (FaBo) 20 セット	本科演習科目で利用し、マイコンやプログラミングの理解を深める。
レゴマインドストーム EV3 13 セット	本科演習科目で利用し、プログラミングの理解を深める。
GPU による並列計算機サーバ 2 台	高速計算が可能なため、本科及び専攻科の研究で利用している。

5. 教育課程

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考	
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必修科目	専門共通基礎	制御情報工学概論	1	1						
		化学実験	2		2					
		応用物理 1	2			2				
		応用物理 2	2			2				
		応用物理実験	2			2				
		応用数学 1	2				2			
		応用数学 2	2				2			
	メカトロニクス	製図	1		1					
		加工実習	2		2					
		機構学	1		1					
		シーケンス制御	1			1				
		電磁気学	2				2			
		電子回路	2				2			
		電気回路 1	2			2				
		電気回路 2	2				2			
		CAD 演習	1			1				
		ロボット工学	2					2		
		計測工学	1				1			
		制御工学 1	2				2			
		制御工学 2	1					1		
		制御工学実験	2					2		
		パワーエレクトロニクス	1					1		
		半導体材料工学	1					1		
		工業倫理と安全	1					1		
		物質工学概論	1					1		学科横断科目
		機械工学概論	2				2			学科横断科目
	情報系	情報処理基礎	2	2						
		プログラミング 1	1	1						
		プログラミング 2	2		2					
		プログラミング 3	1			1				
		オブジェクト指向プログラミング	1			1				
		電子計算機基礎	2			2				
		論理回路	2			2				
		計算機ネットワーク	1			1				
		情報セキュリティ	1			1				
		データベース基礎	2				2			学修単位
		創造プログラミング演習	2				2			
		電子情報実験	2					2		
		情報理論	2					2		学修単位
		離散数学	2				2			
		数値計算法	2				2			
		データ構造とアルゴリズム	1				1			
		計算機システム	1				1			
		オペレーティングシステム	1					1		
		ディジタル回路設計	1				1			
		コンパイラ	2					2		学修単位
		ソフトウェア工学	1				1			
計算機アーキテクチャ 1		1					1			
計算機アーキテクチャ 2		2					2		学修単位	
信号処理		2				2			学修単位	
通信工学		1					1			
マルチメディア工学		1					1			
情報通信実験		2					2			
卒業研究		7					7			
必修科目修得小計		89	4	8	18	29	30			
科目選択	短期インターンシップ		1				1			
	選択科目修得小計		0 以上				0 以上			
	専門科目修得合計		89 以上	4	8	18	59 以上			

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	4	8	18	29		
	選択科目	0 以上				0 以上		
	小計	89 以上	4	8	18	59 以上		
総修得単位数		167 以上	30	34	34	69 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

生物応用化学科

1. 概略

生物応用化学科は、以下の教育目的・目標の下、主に化学、生物学、技術者素養に関する教育を行っています。低学年において基礎科目を幅広く学習し、4年次から応用化学コースと生物化学コースに別れ専門的に学ぶことができることが本学科の特徴と言えます。卒業生の半数は本科卒業後に就職し、主に総合化学工業、医療器・医薬品工業、食品工業で活躍しています。残り半数は、(国立)大学へ編入学または専攻科へ進学し、さらに高度な科目を継続して学習します。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
梶 隆彦	教授／学科長	博士（工学）	反応工学	物理化学 1、物化・化工実験、物理化学 2、短期インターンシップ、化学工学 2、バイオ工学、応用物理化学
富岡 寛治	教授	博士（工学）	生物工学	生物学 1、基礎無機化学、物質工学概論、産業財産権・工業倫理、応用情報処理演習、創造工学実験
中島 裕之	教授	博士（農学）	生化学	基礎生物化学実験、生物学 2、生物化学実験、専門基礎（生物応用化学）、生物応用化学概論、遺伝子・細胞工学、生体機能分子学、分子生物学
辻 豊	教授	博士（理学）	有機化学	化学 1、分析化学実験、有機化学実験、専門基礎（生物応用化学）、有機合成化学、工業物理化学 2、短期インターンシップ、物性化学
石井 努	教授	博士（工学）	機能有機化学	分析化学実験、有機化学実験、酸塩基化学、工業物理化学 1、機器分析、有機金属化学、有機反応化学
笈木 宏和	准教授	博士（農学）	微生物学	基礎生物化学実験、情報化学 1、生物化学実験、情報化学 2、専門基礎（生物応用化学）、代謝工学、環境工学、生体物質化学
渡邊 勝宏	准教授	博士（工学）	高分子化学	創造化学実験、分析化学実験、化学 2、基礎有機化学 1、基礎有機化学 2、有機化学 1、専門基礎（生物応用化学）、高分子化学、高分子材料特論
松田 貴暁	准教授	博士（工学）	応用化学	基礎溶液化学、化学平衡論、有機化学実験、専門基礎（生物応用化学）、物化・化工実験、無機化学 1、有機化学 2、無機化学 2
萩原 義徳	准教授	博士（理学）	構造生物学	基礎生物化学実験、生物学 2、情報化学 1、生物化学実験、酵素構造化学、専門基礎（生物応用化学）、遺伝子・細胞工学、技術英語
我部 篤	講師	Doctor of Philosophy (Materials Science)	化学工学	物化・化工実験、化学工学 1、産業財産権・工業倫理、創造工学実験
中島めぐみ	助教	修士（医科学）	心身医学	創造化学実験、生物化学実験、化学工学基礎、専門基礎（生物応用化学）、物化・化工実験、情報処理演習、生物有機化学、地球環境と現代生物学
津田 祐輔	特任教授	博士（工学）	高分子化学・材料	有機化学実験、生物応用化学概論、高分子化学 1、機能有機材料、ポリマー工学、創造工学実験、先端工学特論、機能有機材料特論、有機構造化学
全員が担当することを基本とする授業科目				生物応用化学入門、科学技術史、応用化学実験または生物工学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			5 名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
核磁気共鳴装置（JEOL ECX-500II）	有機化合物の分子構造決定ができ、新規化合物の合成等に役立つ。
PCR 装置	生体試料から、特定の DNA 配列を数百万倍に増幅することができる。
GPC 装置	高分子に関する教育・研究・開発・生産に必須である分子量測定に用いる。
電動オールインワン蛍光顕微鏡	肉眼では見えない小さな生物や細胞の特徴を鮮やかに観察することができる。
原子吸光分光光度計	水溶液中の微量金属イオンの濃度を測定でき、水環境分析等に利用できる。
テンシロン万能試験機	引張試験や引裂試験、剥離試験等様々な物性試験が実施できる。
ゼータ電位・粒径測定システム	ナノ粒子の粒子径や分散安定性を評価できる。
熱分析装置	有機物質の融点、転移温度、熱分解温度などを測定することで理解できる。

5. 教育課程

		授業科目	単位数	学年別配当					備考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	専門概念	生物学 2	2		2				学修単位
		基礎無機化学	2			2			
		酸塩基化学	1			1			
		基礎有機化学 1	1		1				
		基礎有機化学 2	1			1			
		物理化学 1	1			1			
		物理化学 2	1				1		
		無機化学 1	1				1		
		無機化学 2	1				1		
		有機化学 1	1			1			
		有機化学 2	1				1		
		高分子化学 1	1				1		
	専門分野Ⅰ	有機金属化学	1				1		
		有機合成化学	1				1		
		高分子化学 2	1				1		
		機能有機材料	1				1		
		応用化学実験	3				3		
		ポリマー工学	2					2	学修単位
	専門分野Ⅱ	生物有機化学	1				1		
		遺伝子・細胞工学	2				2		
		代謝工学	1				1		
		生物工学実験	3				3		
		バイオ工学	2					2	学修単位
	設計・開発	化学工学 1	2				2		学修単位
		化学工学 2	4					4	
		機器分析	2				2		
		工業物理化学 1	1				1		
		工業物理化学 2	1					1	
		機械工学概論	1					1	学科横断科目
		電気電子工学概論	1					1	学科横断科目
	専門関連分野	基礎溶液化学	1		1				学修単位
		化学平衡論	1		1				
		酵素構造工学	2			2			
		応用数学	2				2		
		応用物理 1	2			2			
		応用物理 2	2			2			学修単位
		応用物理実験	2			2			
		環境工学	2					2	
		情報化学 1	2		2				
		情報化学 2	1			1			学修単位・学科横断科目
		化学工学基礎	1			1			
		情報処理演習	2				2		
		創造化学実験	2	2					
		分析化学実験	2		2				
		基礎生物化学実験	3		3				
		有機化学実験	3			3			
		生物化学実験	3			3			
		物化・化工実験	3				3		
		生物応用化学入門	1	1					
		品質・安全工学	2				2		学修単位
		産業財産権・工業倫理	2					2	学修単位
		卒業研究	11					11	
		工業英語	1					1	
		必修科目修得小計	88	3	12	22	26	25	
科目選択	科学技術史	1					1	(1)	1 単位以上
	短期インターンシップ	1					1		
	選択科目修得小計	1 単					1 単		
専門科目修得合計			89 単	3	12	22	52 単		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	27	25	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	27	25	16	10		
専門	必修科目	88	3	12	22	26	25	
	選択科目	1 単				1 単		
	小計	89 単	3	12	22	52 単		
総修得単位数		167 単	30	37	38	62 単		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

材料システム工学科

1. 概略

材料システム工学科は、以下の教育目的・目標の下、私たちの生活を支える優れた製品を創り出すために、その基礎となる材料の知識や技術を修得するための教育、それらの知見に基づいた新しい材料や機能性を高めた材料を開発するための研究を行っています。

この学科を卒業する学生には、将来のものづくりを支える技術者になって欲しいと願い、実験・実習を多く取り入れた実践的な教育を進めています。材料工学を学ぶことができる高専は、全国には4高専しかなく、このことは本学科の特徴となっています。卒業生は、主に鉄鋼・非鉄等の素材メーカーをはじめ、機械、輸送機器、電機、エネルギー等の産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

(2) 教育目標

- 金属、セラミックス、高分子材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。
- ・構造、性質、機能
 - ・製造プロセス、加工、リサイクルに関する技術
 - ・設計、解析、評価
 - ・材料工学に関連した周辺知識

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
川上 雄士	教授／学科長	博士（工学）	金属加工学	金属物理学 2、工業英語、材料システム実験 4、物質工学概論、品質管理、金属熱処理論、金属材料学 2、構造材料学、専攻科研究基礎
奥山 哲也	教授	工学博士	個体物理	材料システム実験 2、電気電子材料、材料システム実験 4、材料物性学 1、結晶構造解析、材料物性学 2、専攻科特論一般Ⅰ、先端工学特論、専攻科研究基礎、創造工学実験、半導体材料、専攻科研究論文、専攻科特論一般Ⅱ、専攻科特論専門Ⅰ、専攻科特論専門Ⅱ、専攻科インターンシップ
森園 靖浩	教授	博士（工学）	材料組織学	材料システム工学概論、材料組織学、材料システム実験 2、金属材料学 1、接合工学、材料加工実験、材料強度学、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
山本 郁	教授	博士（工学）	材料組織制御	図学、基礎設計製図、材料システム実験 2、塑性加工学、材料評価実験、融体加工学、専攻科研究基礎、先端工学特論、創造工学実験、専攻科研究論文、材料組織制御、専攻科インターンシップ、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
矢野 正明	准教授	博士（工学）	電気化学	物理化学 1、材料システム実験 3、電気化学 1、環境工学、材料評価実験、電気化学 2、表面処理工学
岩田 憲幸	准教授	博士（工学）	材料化学	材料システム実験 1、基礎材料化学、セラミックス材料学 1、セラミックス材料学 2、工業英語、材料システム実験 4、材料加工実験、機能性無機材料化学
周 致霆	准教授	博士（工学）	構造材料物性学	情報リテラシー、情報処理 1、金属物理学 1、情報処理 2、材料評価学、高温強度学
清長 友和	講師	博士（工学）	材料化学	材料化学 1、物理化学 1、材料システム実験 3、工業英語、物理化学 2、材料加工実験、触媒材料化学
佐々木大輔	助教	博士（工学）	材料強度学	材料加工実習、機械加工学、材料力学、応用設計製図・CAE、材料評価実験、応用情報処理演習、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
小袋 由貴	助教	博士（工学）	材料化学	情報リテラシー、情報処理 1、材料システム実験 1、工業英語、材料化学 2、技術英語、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
全員が担当することを基本とする授業科目				材料システム工学入門、短期インターンシップ、卒業研究
非常勤講師			4名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
光学顕微鏡	材料の“顔（組織）”を観察するための最も基本的な装置です。
電界放射型電子顕微鏡	材料の組織を高倍率で観察できます元素分析装置も付いています。
X線回折分析装置	X線を照射し、それにより得られる回折ピークから物質を同定できます。
ICP発光分光分析装置	溶液中に含まれる元素を分析するためには欠かせない装置です。
走査型X線光電子分光分析装置	材料の極表面付近の化学結合状態を分析・評価できます。
高温引張試験装置	材料の引張強さを室温だけでなく、高温でも測定できます。
マイクロビッカース硬さ試験機	材料表面におけるミクロンレベルの領域の硬さを測定できます。
計装化シャルピー衝撃試験機	材料が破壊するときのエネルギーを測定し、強靱さを評価します。

5. 教育課程

授業科目		単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	材料システム工学入門	2	2					
	情報リテラシー	1		1				
	情報処理 1	1		1				
	情報処理 2	1				1		学科横断科目
	応用数学 1	2				2		
	応用数学 2	1				1		
	応用数学 3	1					1	
	応用物理 1	2			2			
	応用物理 2	2			2			
	材料加工実習	3	3					
	図学	1	1					
	基礎設計製図	1		1				
	応用設計製図・CAE	2				2		
	電気電子工学概論	1				1		学科横断科目
	機械加工学	1			1			
	基礎材料化学	2		2				
	セラミックス材料学 1	1			1			
	セラミックス材料学 2	1				1		
	材料化学 1	2			2			
	材料化学 2	2				2		
	物理化学 1	2			2			
	物理化学 2	2				2		
	高分子材料学	1					1	学科横断科目
	電気化学 1	1				1		
	電気化学 2	1					1	
	環境工学	1					1	
	金属物理学 1	2			2			
	金属物理学 2	1				1		
	材料物性学 1	1				1		
	材料物性学 2	2					2	
	材料力学	2			2			
	塑性加工学	2				2		
	材料組織学	1			1			
	材料強度学	2					2	学修単位
	金属材料学 1	2				2		
	金属材料学 2	2					2	学修単位
	融体加工学	1					1	
	材料評価学	2					2	学修単位
	工業英語	2				2		学修単位
	安全工学・工業倫理	1					1	学科横断科目
	化学実験	2		2				
	応用物理実験	2			2			
	材料システム実験 1	2		2				
	材料システム実験 2	2			2			
	材料システム実験 3	3				3		
	材料システム実験 4	3				3		
	材料システム実験 5	3					3	
	卒業研究	9					9	
選択科目	必修科目修得小計	87	6	9	19	27	26	
	短期インターンシップ	1				1		
	接合工学・複合材料	1					1	2単位以上修得
	金属熱処理論	1					1	
	品質工学	1					1	
	選択科目修得小計	2 ^{以上}				2 ^{以上}		
専門科目修得合計		89 ^{以上}	6	9	19	55 ^{以上}		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	87	6	9	19	27	26	
	選択科目	2 ^{以上}				2 ^{以上}		
	小計	89 ^{以上}	6	9	19	55 ^{以上}		
総修得単位数		167 ^{以上}	32	35	35	65 ^{以上}		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

専攻科

1. 概略

専攻科は、高等専門学校を卒業した者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導するために置かれる組織です。

本校は、高等専門学校卒業生に対して、継続性のあるより高度な技術者教育を行うことを目的として、平成5年に九州で初めて専攻科を設置しました。

本校専攻科は、修業年限2年の機械・電気システム工学専攻（3コース）及び物質工学専攻（2コース）から成り、更に高度な専門知識を追求するだけでなく、充実した実験、研究を行うことにより、独創的な研究開発や先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

なお、本校専攻科の修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、同機構が通常課している試験を受験することなく学士号を授与されます。



2. 特色

専攻科は少人数定員の特性を活かした充実した教育研究環境を備え、本科との継続性を重視した教育を行っています。
なお、修得した工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを経験させるためインターンシップを選択科目に設け、実践的技術者としての資質を高める教育課程を設定しています。

また、工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行う創造工学実験を必修科目に設けることで、自主性、創造性並びに行動力の向上を図っています。

3. 教育目的

次のような実践的、創造的技術者の育成を目的とする。

- 1 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
- 2 創造的研究開発能力を持った技術者
- 3 国際化に対応できる技術者

4. 専攻ごとの教育目標

◆機械・電気システム工学専攻

機械、電気電子、制御情報に関するより深い専門知識を教授し、これらの知識を総合的に活用し、様々な問題解決ができる技術者を育成する。

◆物質工学専攻

有機、無機、ポリマー、金属材料及びバイオ技術に関するより深い専門知識を教授し、新物質の開発や製造プロセス技術に対応できる技術者を育成する。

5. コースごとの教育目標

◆機械工学コース

- 1 技術者倫理
 - 1-1 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
 - 1-2 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
 - 1-3 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
- 2 数学、物理、情報処理に関する知識と応用力
 - 2-1 数学に関する知識を専門分野に応用できる。
 - 2-2 物理に関する知識を専門分野に応用できる。
 - 2-3 情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。
- 3 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成
 - 3-1 材料と強度に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-2 機械設計に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-3 生産工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-4 熱・流体工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-5 制御・情報技術に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- 4 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得
 - 4-1 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
 - 4-2 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
- 5 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- 6 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- 7 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション
 - 7-1 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
 - 7-2 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
- 8 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

◆制御情報工学コース

- 1 技術者としての広い視野と倫理観
 - 1-1 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
 - 1-2 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。
- 2 基礎工学の知識と応用力
 - 2-1 数学、自然科学、情報に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
 - 2-2 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- 3 専門工学の知識と応用力
 - 3-1 制御、情報及びこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
 - 3-2 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
 - 3-3 前「3-1」の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
- 4 学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
- 5 コミュニケーション力
 - 5-1 日本語での自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
 - 5-2 英語による基礎的なコミュニケーションができる。
- 6 実践力
 - 6-1 他者と協力して課題に取り組むことができる。
 - 6-2 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
 - 6-3 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

◆電気電子工学コース

- 1 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
 - 1-1 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
 - 1-2 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。
- 2 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
 - 2-1 ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。
 - 2-2 ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。
- 3 もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
 - 3-1 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
 - 3-2 実験データを解析、考察し説明できる。
 - 3-3 共同で実験・演習を遂行できる。
- 4 電気電子技術の基礎となる学力の修得
 - 4-1 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
 - 4-2 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- 5 技術に関するコミュニケーション能力の育成
 - 5-1 分かりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
 - 5-2 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- 6 技術者倫理感覚の育成
 - 6-1 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
 - 6-2 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- 7 企画・管理能力の育成
 - 7-1 産業や社会との連携活動や実験・実習の中から技術的な課題を見出すことができる。
 - 7-2 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

◆生物応用化学コース

- 1 技術者倫理と多面的視野
 - 1-1 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
 - 1-2 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- 2 生物応用化学基礎と工学基礎
 - 2-1 生物及び化学に関する基礎知識を習得する。
 - 2-2 物理、数学及び情報技術を工学に応用できる。
- 3 生物応用化学の専門知識と応用力
 - 3-1 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識及び両分野に共通して必要な専門知識を習得し、それらを当該工業分野に応用することができる。
 - 3-2 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術及び両分野に共通して必要な実験技術を体得し、それらを種々の問題解決に応用することができる。
- 4 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- 5 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- 6 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- 7 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

◆ 材料工学コース

- 1 自然科学及び情報処理技術に関する知識
- 1-1 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識とその応用力を身に付ける。
- 1-2 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応させる能力を身に付ける。
- 2 材料に関する基礎的知識と応用力
- 2-1 材料、特に金属及びセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付ける。
- 2-2 材料、特に金属及びセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付ける。
- 2-3 材料に関する基礎的知識を工学問題の解決に活用できる能力を身に付ける。
- 3 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる能力を身に付ける。
- 4 調査及び実行能力
- 4-1 課題に対して自主的に調査する能力を身に付ける。
- 4-2 計画性を持って物事に取り組み、実行する能力を身に付ける。
- 4-3 課題の結果を間違いの少ない文章及び口頭で表現し、討論できる能力を身に付ける。
- 5 外国に関する知識及び国際的コミュニケーションの基礎能力を身に付ける。
- 6 多面的視野と技術者倫理
- 6-1 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考える能力を身に付ける。
- 6-2 技術者の社会的責任を自覚する能力を身に付ける。
- 7 インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考える能力を身に付ける。

6. 教育課程

(1) 各専攻・コース共通

授業科目			授業形態	単位	学年別配当		備考
					1 年次	2 年次	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	講義	2	2		
		実践英語Ⅱ	講義	2	2		
		実践英語Ⅲ	講義	2		2	
		一般科目必修単位計		6	4	2	
	選択	日本語コミュニケーション	講義	2		2	2 単位以上修得
		生涯スポーツ特論	講義	2		2	
		産業財産権特論	講義	2	2		
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2	2		4 単位以内
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2		2	
		一般科目選択開設単位計		10	4	6	
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2		
		現代物理学	講義	2	2		
		応用情報処理演習	演習	2	2		
		専門基礎科目必修単位小計		6	6	0	
	選択	応用数理Ⅰ	講義	2	2		
		応用数理Ⅱ	講義	2	2		
		応用数理Ⅲ	講義	2		2	
		量子力学	講義	2	2		10 単位以上修得
		物性化学	講義	2	2		
		画像工学	講義	2	2		
		応用情報処理	講義	2	2		
		統計力学及び熱力学	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2		2	4 単位以内
		専門基礎科目選択開設単位小計		20	12	8	
		専門基礎科目開設単位計		26	18	8	
		一般科目、専門基礎科目開設単位合計		42	26	16	

(2) 機械・電気システム工学専攻

授業科目		授業 形態	単位数	学年別配当		備考			
				1 年次	2 年次				
必修	創造工学実験	実験	2	2					
	技術英語	演習	1		1				
	先端工学特論	演習	1	1					
	専攻科研究基礎	実験	5	5					
	専攻科研究論文	実験	10		10	学位申請等論文			
	専門科目必修単位小計		19	8	11				
専門科目 選択	弾塑性力学	講義	2	2		A	*	*	
	破壊力学	講義	2	2		A	*	*	
	応用流動工学	講義	2	2		A	*	*	
	生産加工学	講義	2		2	A	*	*	
	移動現象論	講義	2	2		A	*	*	
	計算力学	講義	2		2	A	S	*	
	設計システム工学	講義	2	2		A	*	E	
	メカトロニクス工学	講義	2		2	A	S	E	
	システム制御工学	講義	2	2		A	S	E	
	デジタル制御	講義	2	2		A	S	E	
	トライボロジー解析学	講義	2		2	A	*	*	
	コンピュータグラフィックス	講義	2		2	*	S	*	
	パターン認識	講義	2		2	*	S	*	
	形式言語とオートマトン	講義	2	2		*	S	E	
	データベース	講義	2	2		*	S	*	
	コンピュータサイエンス	講義	2		2	*	S	E	
	応用電磁気学	講義	2	2		*	S	E	
	光エレクトロニクス	講義	2		2	*	*	E	
	集積回路工学	講義	2	2		*	*	E	
	デジタル信号処理	講義	2	2		*	S	E	
	プラズマ工学	講義	2		2	*	*	E	
	機械工学特論	講義	2	2		集中講義			
	電気電子工学特論	講義	2	2		集中講義			
	制御情報工学特論	講義	2	2		集中講義			
	専攻科インターンシップ	実習	2	2		A	S	E	
	専門科目選択開設単位小計			50	32	18	A、S、Eの各区分 30 単位から 14 単位 以上、修得のこと。		
	専 門 科 目 開 設 単 位 計			69	40	29			
	全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			111	66	45			
	全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			63 単位以上					
	全開設単位合計（機械工学系）			89	56	33	備考欄の*は他専攻扱 いの科目（4 単位以内）		
	全開設単位合計（制御情報系）			89	54	35			
	全開設単位合計（電気電子系）			89	56	33			

※ A は機械工学系、S は制御情報系、E は電気電子系の履修科目を示す。

(3) 物質工学専攻

授業科目		授業 形態	単位数	学年別配当		備考		
				1 年次	2 年次			
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1		1			
	先端工学特論	演習	1	1				
	専攻科研究基礎	実験	5	5				
	専攻科研究論文	実験	10		10	学位申請等論文		
	専門科目必修単位小計		19	8	11			
専門科目 選 択	有機反応化学	講義	2	2		C	*	
	有機構造化学	講義	2		2	C	*	
	生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
	生体物質化学	講義	2	2		C	*	
	化学工学特論	講義	2		2	C	*	
	機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
	分子生物学	講義	2		2	C	*	
	分子機能化学	講義	2		2	C	M	
	高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
	応用物理化学	講義	2		2	C	M	
	機能性無機材料科学	講義	2	2		C	M	
	半導体材料	講義	2	2		*	M	
	材料組織制御	講義	2		2	*	M	
	構造材料科学	講義	2	2		*	M	
	触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
	材料強度学	講義	2	2		*	M	
	表面処理工学	講義	2	2		*	M	
	高温強度学	講義	2		2	*	M	
	生物応用化学特論	講義	2	2		集中講義		
	材料工学特論	講義	2	2		集中講義		
	専攻科インターンシップ	実習	2	2		C	M	
	専門科目選択開設単位小計		42	28	14	C及びMともそれぞれ 28 単位中 14 単位以上修得のこと。		
	専門科目開設単位計		61	36	25			
	全開設単位合計 （一般科目、専門基礎科目を含む。）			103	62	41		
	全科目修得単位合計 （一般科目、専門基礎科目を含む。）			63 単位以上				
	開設単位合計（生物応用化学系）			87	52	35	備考欄の＊は他専攻扱いの科目 （4 単位以内）	
	開設単位合計（材料工学系）			87	54	33		

※ C は生物応用化学系、M は材料工学系の履修科目を示す。

図書館

1. 概略
1階の図書館スペースには、グループ学習スペース、個別学習ブース、閲覧室があり、閲覧室内には DVD 等を鑑賞できる AV ルームや直木賞作家であり本校の卒業生である安部龍太郎氏のコーナーを設置しています。閲覧室内は工学系専門書、参考書をはじめ、文学作品や人文社会系、語学系と多数の図書を配架しています。また、本校学生・教職員だけでなく、学外の方への利用開放も行っています。

2. 蔵書等

(1) 蔵書冊数 令和2年4月1日現在

分類	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	その他	合計
和書	3,818	5,213	5,803	5,248	16,184	16,788	428	2,515	2,400	10,893	18,863	88,153
洋書	80	23	26	61	1,667	1,180	12	7	1,436	861	241	5,594
合計	3,898	5,236	5,829	5,309	17,851	17,968	440	2,522	3,836	11,754	19,104	93,747

(2) データベース、電子ジャーナル 令和2年4月1日現在

名称	内容
Science Direct	エルゼビアの科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナル
AIP	米国物理学協会（American Institute of Physics）の電子ジャーナル
APS	米国物理学会（American Physical Society）の電子ジャーナル
JDream III	科学技術振興機構提供（JOIS の Web 版）データベース
MathSciNet	AMS 製作による、学術論文誌・抄録・レビュー並びに著者情報のデータベース
ACS	米国化学会（American Chemical Society）の電子ジャーナル
CiNii	学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベース等、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス
Science	アメリカ科学振興協会（American Association for the Advancement of Science）の電子ジャーナル



学生相談室・保健室

学生相談室は、学生が直面する様々な悩みなどに対して、担任や授業担当教員と同様にその解決をサポートするところです。学生相談室のメンバーは、学生相談室長・室員（教員）・看護師・カウンセラー・精神科医（必要に応じて来校）で構成されています。カウンセラー及び精神科医は専門職の立場で学生の悩み等を聞き、必要なアドバイス及び解決へのサポートを行います。学生相談室の活動は Web ページでも確認することができます。学生だけでなく、保護者や担任の先生からの相談も受け付けています。



学生相談室



保健室

ものづくり教育センター

ものづくり教育センターは“ものをつくる基礎技術”をベースに、IT 技術を応用した新世代の生産技術へ発展させ、新しい機械加工やスマート電力の生産制御技術へ対応できる技術者の育成と、産業界への技術的な貢献が可能な施設です。従来の基礎的な実習（木型、鋳造、鍛造・溶接、機械加工・仕上げ）を行う設備を確保しつつ、3D プリンタや NC 工作機械を導入し、IT 技術を応用したものづくり教育に対応できる実習環境です。



ものづくり教育センター



NC 工作機械

総合情報センター

総合情報センターは「Information」、「Communication」および「Computing」に関連する業務全体の組織的運用を目指しており、情報を積極的に提供あるいは活用して、本校の情報処理を合理的かつ効率的に実行し、教育・研究の支援を行うとともに事務系業務の合理化を推進しています。



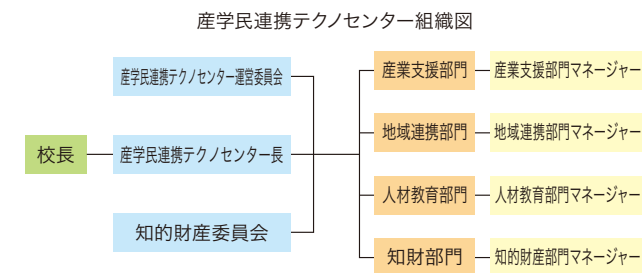
第1IT 演習室



多目的室

産学民連携テクノセンター

産学民連携テクノセンターは、下図の組織構成により本校の教育研究の発展に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育の進捗に資することを目指します。



産学民連携テクノセンターのミッション

》地域産業界・民間企業との連携

共同研究等の連携制度により、民間企業等の研究内容、テーマ及びニーズに対応しています。

また、テクノネット久留米と連携し、地場産業の高度化、産業力強化のための研究を推進しています。

》地域の行政・公設機関との連携

本校の教育・研究資源を広く開放し、各種公開講座を解説しています。

》初等・中等教育機関との連携

高専の持つ教育資源を活用し、地域の初等中等教育機関への支援を行っています。

》大学・高専などの高等教育機関との連携

高等教育コンソーシアム久留米等との連携を基礎に、フォーラム、講演会、セミナー等を実施しています。

》教育・研究資源の情報発信

本校の刊行物等を通じて研究者の教育・研究資源情報を発信しています。

キャリア支援室

キャリア支援室は、「低学年から高学年までの高専生活全体に渡る、就職・進学を網羅した学生のキャリアパスの確立のサポート」を目的として活動しています。学生の進路指導は、就職主任の教員や5年担任の教員を中心に、各学科内の密な連携のもと、少人数教育の利点を活かした細やかな指導や助言を行っています。各学科には、学生が就職・進学に関する情報を自由に閲覧、アクセスできるようにするために、進路指導室やスペースを設け進学・就職の関連資料を提供しています。

学校行事としての本科4年時における工場見学旅行の他に関係部門と協力しながら次のような取り組みを実施しています。

- (1) 本科及び専攻科インターンシップ
- (2) 卒業生・修了生によるキャリア教育講演会や企業説明会
- (3) 大学編入や大学院進学の実績がある大学等による説明会
- (4) キャリアアップセミナーなどの講演会
- (5) TOEIC や SPI 模試など進路に関する試験

進路選択のさらなるサポートと共に、学生の将来の目標を見据えた、日々の学習モチベーションアップも目指しています。



3年生を対象としたキャリアアップセミナー (2019.10.25)



進路指導・資料用スペース (材料システム工学科の例)

学生寮

1. 概略

本校の学生寮は、男子学生のための「筑水寮」と女子学生のための「つつじ寮」の二棟からなります。筑水寮は、その名を本校の傍を流れる筑後川に由来し、久留米高専設立当初から続く伝統のある寮です。また、つつじ寮は2012年に建設され、久留米市の市花「久留米つつじ」から名付けられました。主にアジア圏からの留学生や特別聴講生を含め約180名(男子約150名、女子約30名)の寮生が生活を共にしています。

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む、寮生会役員が中心となって行われております。勉学以外にも、寮生会が中心となって、寮祭、防災訓練、外部寮視察、テーブルマナー講習会、ヘルスチェックキャンペーン等、一年を通して様々な活動を行っています。

寮の出入口はオートロック方式で警備され、3年生までは二人部屋、4年生以上は個室です。エアコンも完備され、インターネットへのアクセスも可能です。寮内の食堂では、栄養のバランスを考慮した食事が提供されており、健康で安心して生活できるよう配慮されています。



筑水寮居室



つつじ寮居室



寮食堂

2. 入寮者数

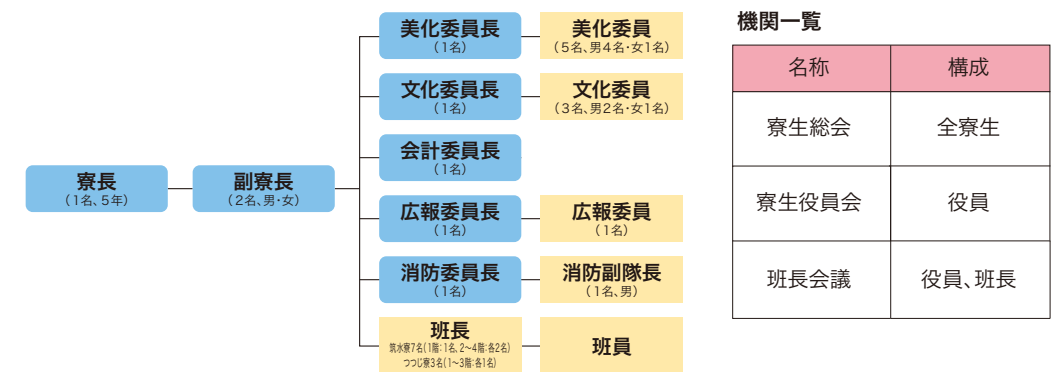
令和2年4月1日現在

区分	本科					専攻科		合計
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
男	41	41	27 (1)	27 (2)	22 (1)	4	4	166 (4)
女	11	6	5 (1)	6 (1)	2 (1)	0	0	30 (3)
合計	52	47	32 (2)	33 (3)	24 (2)	4	4	196 (7)

※() 内の数値は留学生数で内数。

3. 寮生会

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む寮生会が中心となって行われています。



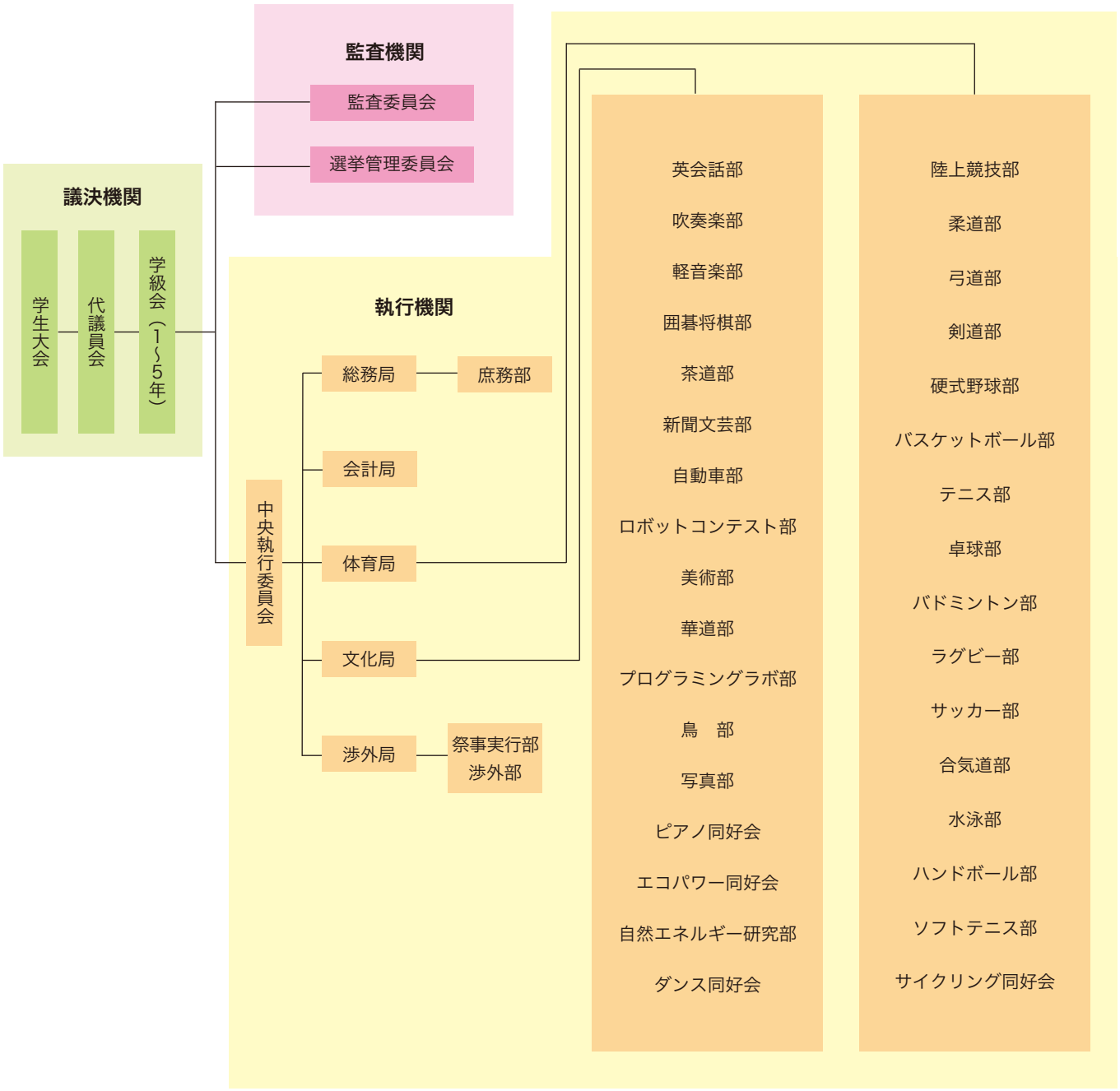
4. 年間行事

4月・開寮 ・新入寮生保護者説明会 ・対面式・寮生会 ・ゴミ分別講習会 ・寮祭 ・第1回食堂&寮生会懇談会 ・避難訓練	5月・体験入寮 ・ヘルスチェック ・キャンペーン	6月・テーブルマナー講習会 ・第2回食堂&寮生会懇談会	7月・大掃除	8月・開寮	9月・開寮
10月・第3回食堂&寮生会懇談会 ・非常食シュミレーション ・防災訓練	11月・料理教室	12月・第4回食堂&寮生会懇談会 ・寮祭 ・大掃除 ・開寮	1月・開寮 ・寮成人式 ・寮生総会	3月・開寮	

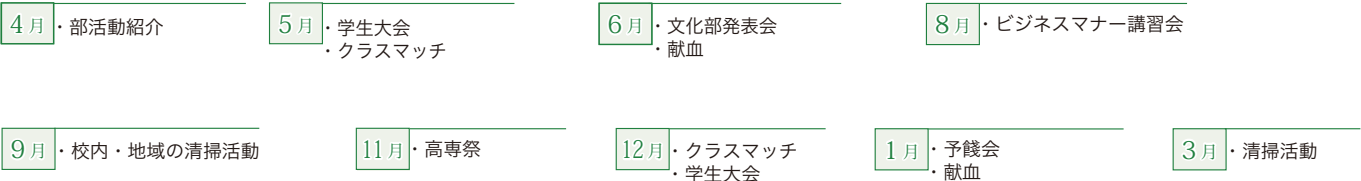
学生会

1. 概略

本校学生会は、学生相互の自治活動を通じて相互の調和、学芸の研究及び民主的社會人としての心身の修養に努め、もって学生生活の向上を図ることを目的としており、下図のとおり組織されています。



2. 年間行事



入学・在学状況

1. 定員・現員

令和2年5月1日現在

学科等		入学定員	総定員	現 員						
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	計	
本科		200	1,000	212 (43) [-]	218 (57) [-]	223 (56) [2]	222 (39) [3]	189 (41) [2]	1,064 (236) [7]	
	機 械 工 学 科	40	200	43 (3) [-]	44 (8) [-]	40 (5) [-]	54 (7) [1]	36 (3) [-]	217 (26) [1]	
	電 気 電 子 工 学 科	40	200	43 (4) [-]	43 (6) [-]	43 (3) [-]	43 (1) [1]	34 (3) [1]	206 (17) [2]	
	制 御 情 報 工 学 科	40	200	41 (3) [-]	44 (10) [-]	44 (6) [1]	48 (8) [-]	39 (7) [-]	216 (34) [1]	
	生 物 応 用 化 学 科	40	200	43 (24) [-]	43 (18) [-]	48 (21) [1]	42 (18) [1]	40 (15) [1]	216 (96) [3]	
	材 料 工 学 科							40 (13) [-]		40 (13) [-]
	材料システム工学科	40	200	42 (9) [-]	44 (15) [-]	48 (21) [-]	35 (5) [-]	169 (50) [-]		
専攻科		20	40	34 (6) [-]	47 (7) [-]			81 (13) [-]		
機 械 ・ 電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻		12	24	21 (3) [-]	26 (-) [-]			47 (3) [-]		
物 質 工 学 専 攻		8	16	13 (3) [-]	21 (7) [-]			34 (10) [-]		

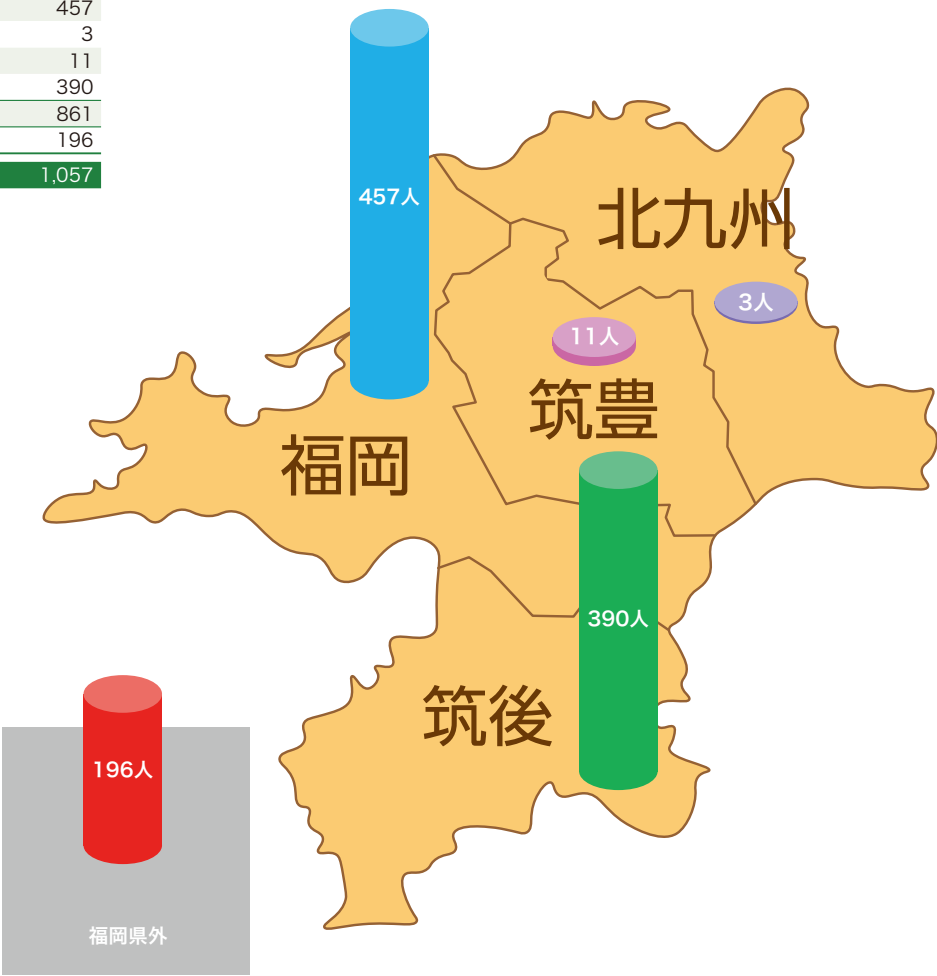
() は女子で内数
[] は留学生で内数

2. 出身中学別学生数

令和2年5月1日現在

出身中学所在地		学生数
福岡県内	福岡地域	457
	北九州地域	3
	筑豊地域	11
	筑後地域	390
県内小計		861
福岡県外		196
総 合 計		1,057

※留学生は除く。



卒業・修了状況

1. 卒業・修了者数（令和元年度）

		本科					専攻科			
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
卒業・修了者		36 (2)	33 (3)	37 (7)	34 (11)	37 (12)	177 (35)	28 (3)	11 (1)	39 (4)
	内 就職	18 (1)	16 (2)	25 (2)	14 (7)	21 (9)	94 (21)	7 (1)	2 (0)	9 (1)
	内 進学	17 (0)	16 (1)	11 (4)	20 (4)	15 (2)	79 (11)	20 (2)	9 (1)	29 (3)
	内 その他	1 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (2)	1 (0)	0 (0)	1 (0)

（ ）は女子で内数

2. 進学状況（令和元年度）

(1) 本科

進学先	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計
東北大学 工学部	-	1	-	-	1	2
筑波大学 情報学群	-	-	1	-	-	1
東京海洋大学 海洋生命科学部	-	-	-	1	-	1
お茶の水女子大学 理学部	-	-	1	-	-	1
東京工業大学 理学院	-	-	-	1	-	1
東京農工大学 工学部	-	-	-	1	-	1
長岡技術科学大学	-	-	-	2	-	2
信州大学 工学部	-	-	-	-	1	1
豊橋技術科学大学	-	2	-	-	3	5
京都工芸繊維大学工芸科学部	-	-	-	1	-	1
大阪大学 工学部	-	1	-	-	-	1
広島大学 生物生産学部	-	-	-	1	-	1
九州大学 工学部	3	1	-	3	1	8
九州工業大学 工学部	2	1	3	-	1	7
佐賀大学 理工学部	1	-	1	2	1	5
熊本大学 工学部	2	-	-	1	1	4
宮崎大学 工学部	1	-	-	-	-	1
山口東京理科大学 工学部	-	-	1	-	-	1
長崎総合科学大学	1	-	-	-	-	1
モンゴル科学技術大学	1	-	-	-	-	1
本校専攻科	6	10	4	7	6	33
合計	17	16	11	20	15	79

(2) 専攻科

進学先	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
東北大学大学院 情報科学科	1	-	1
東京大学大学院 情報学環・学際情報学府	1	-	1
東京大学大学院 新領域創成科学研究科	1	-	1
東京工業大学大学院 生命理工学院	-	1	1
名古屋大学大学院 工学研究科	-	1	1
大阪大学大学院 工学研究科	4	1	5
大阪大学大学院 情報科学研究科	1	-	1
九州大学大学院 総合理工学府	7	4	11
九州大学大学院 統合新領域	1	1	2
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	2	1	3
早稲田大学大学院 情報生産システム研究科	2	-	2
合計	20	9	29

3. 就職状況

(1) 本科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数					就職率 (%)
				九州地区	関西地区	関東地区	その他	計	
平成 27 年度	113	2,633	23	34	20	46	12	112	99
平成 28 年度	112	3,187	28	35	20	39	16	110	98
平成 29 年度	115	3,580	31	37	17	47	14	115	100
平成 30 年度	87	3,787	44	25	8	42	12	87	100
令和元年度	94	3,675	39	17	19	51	7	94	100

(2) 専攻科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数			就職率 (%)
				福岡県内	福岡県外	計	
平成 27 年度	10	778	78	5	5	10	100
平成 28 年度	11	1,094	99	2	9	11	100
平成 29 年度	8	1,286	161	0	7	7	88
平成 30 年度	13	1,335	103	3	10	13	100
令和元年度	9	1,304	145	3	6	9	100

(3) 産業別就職状況（令和元年度）

学科 区分		本科					専攻科		
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
製造業	食品・飲料・たばこ・飼料製造業	0	1	0	0	1	2	1	0
	化学工業・石油・石炭製品製造業	2	0	0	12	2	16	0	1
	鉄鋼業 非鉄金属・金属製品製造業	1	0	0	0	11	12	0	1
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	4	2	0	1	2	9	1	0
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	0	0	0	0	1	0	0
	電気・情報通信機械器具製造業	2	1	4	0	1	8	1	0
	輸送用機械器具製造業	3	0	0	0	1	4	1	0
	その他の製造業	1	0	0	0	1	2	0	0
	電気・ガス・熱供給・水道業	1	2	3	0	1	7	0	0
	運輸業・郵便業	1	0	0	0	0	1	0	0
学術研究・専門・技術サービス業	学術研究・専門・技術サービス業	2	10	18	1	1	32	3	0
	宿泊業・飲食サービス業	0	0	0	0	0	0	0	0
	地方公務	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	18	16	25	14	21	94	7	2

(4) 主な就職先機関名称（令和元年度）

機械工学科	本科			専攻科	
	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	
西日本旅客鉄道（株） 本田技研工業（株） （株）LIXIL 旭化成（株） キャノン（株） ソニーグループ・バルマ・エンジニアリング＆オペレーションズ（株） 凸版印刷（株） 三菱ガス化学（株） 九州電力（株） （株）SUBARU	キャノンメディカルシステムズ（株） 九州電力（株） キャノンシステムアンドサポート（株） オリックス・ファシリティーズ（株） 中国電力（株） ANA ベースメンテナンステクニクス（株） （株）MJC （株）ラック サントリリービール（株） （株）栄電舎	NEC フィールドディング（株） （株）トヨタプロダクションエンジニアリング（株） NTT データ 九州電力（株） 中部電力（株） （株）ラック 水 ing（株） 中国電力（株） （株）日立ビルシステム	出光興産（株） 花王（株） KM バイオロジクス（株） 三洋化成工業（株） JXTG エネルギー（株） （株）資生堂 住友精化（株） 第一三共ケミカルファーマ（株） DIC（株） （株）日本触媒	積水化学工業（株） TANAKA ホールディングス（株） （株）LIXIL JX 金属（株） 三井金属鉱業（株） （株）ダイスコ （株）栗本鐵工所 日本冶金工業（株） 西部ガス（株） （株）アーレスティ	（株）安川電機 （株）オーレック ANA ベースメンテナンステクニクス（株） （株）富士通九州システムズ 三菱電機コントロールソフトウェア（株） （株）マツダ E&T （株）東洋新薬 （株）神戸製鋼所

研究活動

1. 産学連携

制度名	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	26	12,524	19	7,919	13	12,019	15	11,804	13	12,660
受託研究	1	100	1	1,700	2	1,304	0	0	0	0
奨学寄附金	25	16,881	22	16,829	18	12,679	19	8,980	15	9,130

※奨学寄附金には、創基 75 周年・高専創立 50 周年記念基金は含まない。

2. 科学研究費補助金等

(1) 科学研究費補助金						
種目	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
基盤研究（C）	英語の語形変化推定を利用した言語モデルによる自動文書作成ソフトウェアに関する研究	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度	制御情報工学科	教授	小田 幹雄	650
	鋼に対する新しい浸炭現象の発見と実用プロセスへの展開	平成 31 年度 ～ 令和 3 年度	材料システム工学科	教授	森園 靖浩	1,040
	鋳型振動法を用いた鋳造材料の結晶粒微細化と結晶粒微細化機構の解明	平成 31 年度 ～ 令和 3 年度	材料システム工学科	教授	山本 郁	1,300
	高等学校における ESD と大学における異文化コミュニケーション教育の接続と開発	平成 31 年度 ～ 令和 3 年度	一般科目（文科系）	准教授	横溝 彰彦	1,560
	軽油・重油へのファインバブル添加による燃費改善および排ガスクリーン化	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	機械工学科	教授	中武 靖仁	2,600
	赤外線カメラを用いたレドックスフロー電池のセル内流動状態の可視化	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	機械工学科	教授	田中 大	1,430
	囲い込み制御理論の進展と安全接触可能な高応答多リンクシステムの開発と応用	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	機械工学科	准教授	南山 靖博	2,340
	ネットワークシステム実習教育機器の GNS3 による仮想化とその機能拡張	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	電気電子工学科	教授	加藤 直孝	2,600
	11 ノルム損失における畳み込み型スパース表現と分散圧縮符号化・深層学習への展開	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	制御情報工学科	教授	黒木 祥光	1,690
	AI 技術を用いた日本人英語学習者のためのリーダービリティ予測モデルの開発	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	制御情報工学科	准教授	中野 明	390
	オプトジェネティクスを促進するピリン色素合成酵素ライブラリの構築	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	生物応用化学科	准教授	萩原 義徳	2,340
	ヒト運動抑制機能へ運動強度が及ぼす影響について	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	一般科目（文科系）	准教授	赤塚 康介	2,860
若手研究	長いき裂を対象とするベスト法とプラズマ法を複合した新規き裂進展抑制手法の構築	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度	材料システム工学科	助教	佐々木大輔	650
	自己組織化マップを用いた眼底血管の形状分類による脳卒中リスクの推定	平成 31 年度 ～ 令和 4 年度	制御情報工学科	助教	古賀 裕章	910
	ニューロン MOSFET を用いた最小ユークリッド距離検索連想メモリに関する研究	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	電気電子工学科	助教	原田裕二郎	1,950
	遮熱特性に優れた非クロム系複合酸化物質顔料の創製	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	材料システム工学科	助教	小袋 由貴	2,340
	超音速粒子衝突による光触媒酸化チタン粒子の固定化	令和 2 年度 ～ 令和 5 年度	機械工学科	助教	渡邊 悠太	2,210

※金額：令和 2 年度受入額（直接経費 + 間接経費）

※令和 2 年度実施課題を記載

(2) その他の補助金						
名称	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
（公財）柿原科学技術研究財団 科学技術研究助成事業	鉄シリサイド半導体材料を用いた低電流密度駆動型 STT-RAM の研究開発	令和元年度～令和 2 年度	制御情報工学科	准教授	堺 研一郎	1,000
（公財）島津科学技術振興財団 研究開発助成	画像特徴量検出とクラスタ解析を用いた道路損傷検知技術の開発	令和元年度～令和 3 年度	制御情報工学科	准教授	松島 宏典	1,000
（公財）電気通信普及財団 研究調査助成	高齢者の自立行動支援のための安全運転支援型電動車いすの開発	令和 2 年度	制御情報工学科	准教授	松島 宏典	3,000
（公財）高橋産業経済研究財団 助成金	コンピュータビジョンに基づいた安全運転支援機能を有する電動車いすの開発	令和 2 年度	制御情報工学科	准教授	松島 宏典	2,000
（公財）ちゅうでん教育振興財団 ちゅうでん教育振興助成	学生の習熟段階に応じたリテラシーの涵養と PBL 主眼とする実験ノート指導に関する研究	令和 2 年度	電気電子工学科	教授	越地 尚宏	790
（公財）高橋産業経済研究財団 助成金	有害シアノバクテリアの光合成アンテナ構築阻害によるアオコ防除法の開発	令和 2 年度	生物応用化学科	准教授	萩原 義徳	1,400
（公財）吉田学術教育振興会 学術奨励金	鉄シリサイド系スピナル素子によるスピン流の生成と光学的スピン流制御	令和 2 年度～令和 3 年度	制御情報工学科	准教授	堺 研一郎	2,000
（公財）吉田学術教育振興会 学術奨励金	鉄系複合酸化物の微粒子合成と光学的特性に関する研究	令和 2 年度～令和 3 年度	材料システム工学科	助教	小袋 由貴	2,000

※令和 2 年度実施課題を記載

社会貢献

1. 生涯学習等

社会貢献及び理工学の振興を目的として、令和元年度は以下の公開講座を実施しました。

開催月	講座名称	対象者	参加者数	開催月	講座名称	対象者	参加者数
8月	化学への招待ー楽しい生物・化学教室ー	小中学生	25名	8月	3D-CAD 基礎講座	社会人	18名
8月	青銅鏡を作製しよう！	中学生	13名	9月	あなたも一日サイエンティスト	中学生	19名
8月	ソーラーカーを作ろう！	中学生	15名	11月	3D-CAD/CAE（材料力学）講座	社会人	8名
8月	IchigoJamを使ったIoT入門	中学生	8名	12月	3D-CAD/CAE（熱流体）講座	社会人	1名

2. テクノネット久留米

テクノネット久留米は、本校による地域連携活動の強化を図る目的で平成24年10月に発足し、福岡県及び佐賀県における産業のさらなる発展や地域の人材の育成等を目指しています。

令和元年度は、本校と地域産業界等との連携・交流を一層深め、地域産業の発展に寄与するとともに、本校の教育研究の振興を図ることを目的に、本校とテクノネット久留米会員との共同研究7件のほか、次の事業を実施しました。

年月日	事業名
令和元年 5月	テクノネット久留米会員紹介ブック2019 発行
令和元年 7月	テクノネット久留米講演会 講師：厨 勝義 氏（株式会社アイローカル代表取締役）
令和元年 8月	図書寄贈事業「テクノネット久留米文庫」
令和元年10月	九州沖縄地区高専技術振興会サミット in KURUME ・令和元年度テクノネット久留米定時総会 ・テクノネット久留米会員企業と久留米高専教員との共同研究発表会 （株式会社古賀歯車製作所 古賀 大智 氏・機械工学科 青野准教授） ・久留米高専学生の就職現状報告（キャリア支援室長 池田教授）
令和元年11月	

課外活動の主な実績

主な課外活動実績（令和元年度）

大会・コンテスト等名称	競技種目等詳細	成績
第54回全国高等専門学校体育大会	陸上競技 男子100m	第2位
第54回全国高等専門学校体育大会	柔道競技 女子52kg 級	第3位
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子100m	優勝、第2位
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子200m	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子走幅跳	第2位
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子三段跳	第2位
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子走高跳	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 女子100mH	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 女子砲丸投	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子4×100m リレー	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	水泳 男子200m 個人メドレー	第2位
第56回九州沖縄地区高専体育大会	ラグビーフットボール	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	硬式野球	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	バスケットボール（男子）	第2位
第56回九州沖縄地区高専体育大会	柔道競技 女子52kg 級	優勝
第56回九州沖縄地区高専体育大会	バレーボール（女子）	優勝
全国高等専門学校第30回プログラミングコンテスト	競技部門	第3位
第15回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト	飛行競技一般部門	第3位、JAXA 賞
ISIPS 2019		Best presentation award 受賞
ISPACS 2019		Best Student Paper award 受賞
日本鑄造工学会第173回全国講演大会		学生優秀講演賞受賞
令和元年度合同学術講演会		ポスター賞受賞
第10回管打楽器ソロコンテスト	高等学校の部 金管部門	第1位
4th STI-gigaku 2019		Best poster Award 受賞
坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト	高校部門	佳作
第11回半導体材料・デバイスフォーラム		ポスター発表最優秀賞受賞

国際交流

1. 学生交流

各年度4月1日現在（単位：名）						
地域	国名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年	令和2年度
アジア	インドネシア	3	2	2	1	2
	マレーシア	5	4	3	3	1
	モンゴル	1	1	2	4	4
アフリカ	ガボン	1	1	1	0	0
合計		10	8	8	8	7

（単位：名）					
地域	国名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年
アジア	ベトナム、マレーシア、中国、タイ、韓国、シンガポール、インドネシア	6	14	19	26
オセアニア	オーストラリア	0	0	1	0
北米	カナダ	0	0	0	1
合計		6	14	20	27

2. 研究者交流

国名	派遣元機関名称	受入人数（名）	受入学科	受入期間
タイ王国	キングモンクット工科大学ラカバン校	1	制御情報工学科	H25. 5. 7～H25. 5.30
タイ王国	マハーサーラカム大学	1	材料工学科	H25.10. 1～H26. 3.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H26. 7. 1～H26.12.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H27. 8. 1～H27.12.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H28. 9. 4～H29. 9. 3
シンガポール	ナンヤン・ポリテクニク	1	制御情報工学科	R01. 9. 9～R01. 9.20

（単位：名）						
地域	主な国	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
アジア	中国、韓国、マレーシア、タイ王国、シンガポール、他5カ国	14	10	15	27	14
アフリア	エジプト	1	0	0	0	0
オセアニア	オーストラリア	0	4	0	0	0
北米	アメリカ	1	4	2	2	0
欧州	イギリス、スペイン、フランス、ドイツ、他7カ国	4	4	2	6	3
合 計		20	22	19	35	17

大学等間交流協定

1. 海外

海外大学等との学術協定等締結状況

締結先機関名称	国	締結年月日	修了年月日
合肥学院大学	中国	平成 7年10月 5日	無期限
啓明大学校	韓国	平成 8年 1月22日	無期限
レッドリバー・コミュニティカレッジ	カナダ	平成 9年 2月 3日	令和4年 2月 2日
ナンヤン・ポリテクニク	シンガポール	平成27年11月16日	令和3年11月15日
キングモンクット工科大学 情報学部	タイ	平成29年 3月30日	令和4年 3月29日
テマセク・ポリテクニク	シンガポール	平成18年 8月 3日	無期限
リパブリック・ポリテクニク	シンガポール	平成18年 8月 3日	無期限
シンガポール・ポリテクニク	シンガポール	平成18年 8月 3日	無期限
ペトロナス工科大学	マレーシア	平成26年 2月 6日	令和6年 2月 5日
ガジャマダ大学	インドネシア	平成26年 2月 6日	令和6年 2月 5日
ガジャマダ大学専門学校	インドネシア	平成31年 3月29日	令和6年 3月28日
キングモンクット工科大学北バンコク校	タイ	平成26年 2月 7日	令和6年 2月 6日
カセサート大学	タイ	平成26年 2月10日	令和6年 2月 9日
ハノイ大学	ベトナム	平成26年 6月 9日	令和6年 6月 8日
廈門理工学院	中国	平成26年 6月28日	令和6年 6月27日
モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成26年 8月 2日	令和6年 8月 1日
国立台北科技大学	台湾	平成27年 3月 3日	令和7年 3月 2日
ハノイ大学	ベトナム	平成27年 6月15日	令和7年 6月14日
キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	平成28年 3月 1日	令和3年 2月28日
ダナン大学機構科学技術大学	ベトナム	平成29年 2月22日	令和4年 2月21日

2. 国内

(1) 国内大学等との学術協定等締結状況

締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	修了年月日
久留米大学、久留米工業大学、久留米信愛女学院短期大学、聖マリア学院大学	単位互換	平成16年 6月28日	令和3年 3月31日
久留米工業大学、久留米大学、聖マリア学院大学、久留米信愛女学院短期大学	高等教育コンソーシアム久留米の設置	平成21年12月17日	無期限
早稲田大学大学院情報生産システム研究科	推薦入学	平成28年 4月 1日	令和3年 3月31日
北陸先端科学技術大学院大学	推薦入学	平成24年 3月27日	令和3年 3月26日
有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、大分工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校	単位互換	平成21年10月 1日	令和3年 9月30日
九州大学大学院総合理工学府、大学院総合理工学研究院、応用力学研究所、先端物質化学研究所	インターンシップ・共同研究	平成30年 1月11日	令和5年 1月10日
九州大学工学系部局	インターンシップ・共同研究・連携教育の推進	平成30年12月 1日	令和5年11月30日
久留米大学	教育・研究・地域社会活動分野での連携協力	令和元年 8月 1日	無期限

(2) 地方公共団体等との協定締結状況

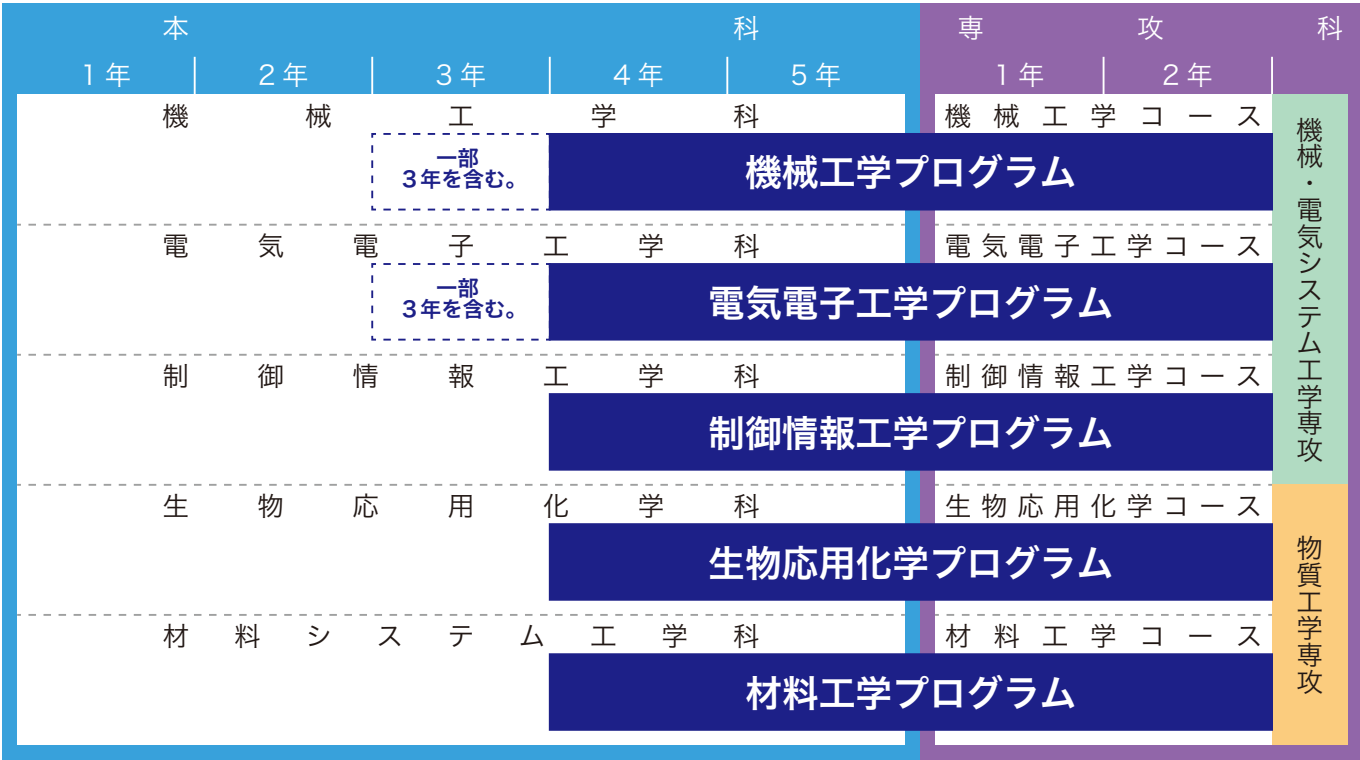
締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	終了年月日
久留米市	事業協定	平成21年 3月31日	期限なし
日本歯車工業会	連携・協力	平成28年 5月20日	令和3年 5月20日(1年毎更新)
日本ゴム協会九州支部	連携・協力	平成28年 7月 8日	令和2年 7月 8日(1年毎更新)
久留米商工会議所	連携・協力	平成28年12月21日	令和2年12月21日(1年毎更新)

技術者教育プログラム

1. 概略

本校の本科4年から専攻科2年に至る4年間の教育については、第三者である一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）より、国際水準や社会的要求に適合する内容とレベルの教育が実施されている技術者教育プログラム（機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム、材料工学プログラム）として認定を受けており、その国際的同等性が保証されています。

所定の要件を満たした専攻科修了生は、JABEE 認定プログラムの修了生として認定を受けることができ、国家試験である技術士資格試験の第一次試験が免除されます。本校においては、平成16年度以降、521名（令和元年度末現在）がJABEE 認定プログラムの修了生として認定を受けています。



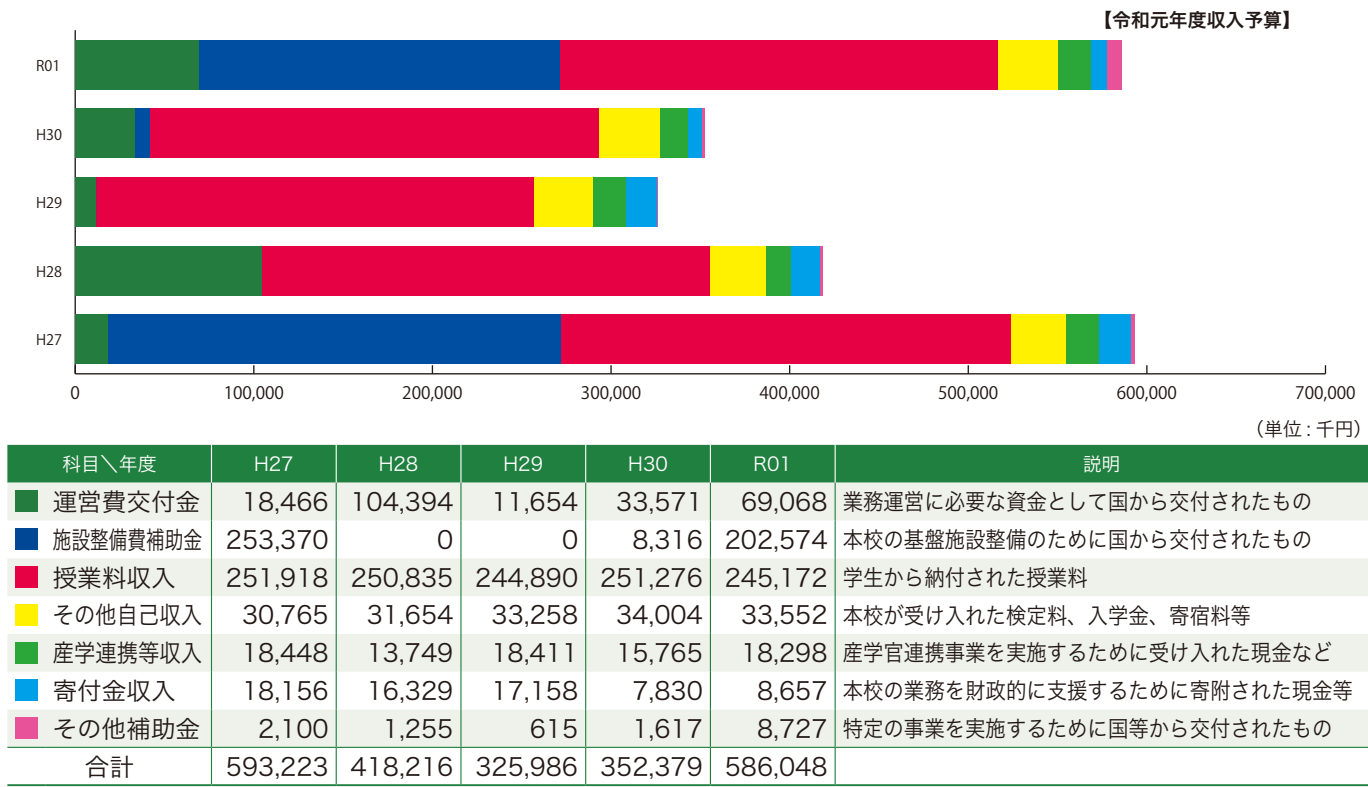
2. JABEE 認定プログラム修了生が身に付ける知識・能力

JABEE 認定プログラムの修了生には、国際的な技術者教育の基準にもとづいて、以下の9項目の知識・能力を身に付けていることが要請されており、本校が提供する5つの技術者教育プログラムの修了生も本9項目を身に付けた技術者であることが保証されます。

- 地球的な視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
- 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを活用する能力
- 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力
- 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- 自主的、継続的に学習する能力
- 与えられた制約の下で計画的に仕事をすすめる、まとめる能力
- チームで仕事をするための能力

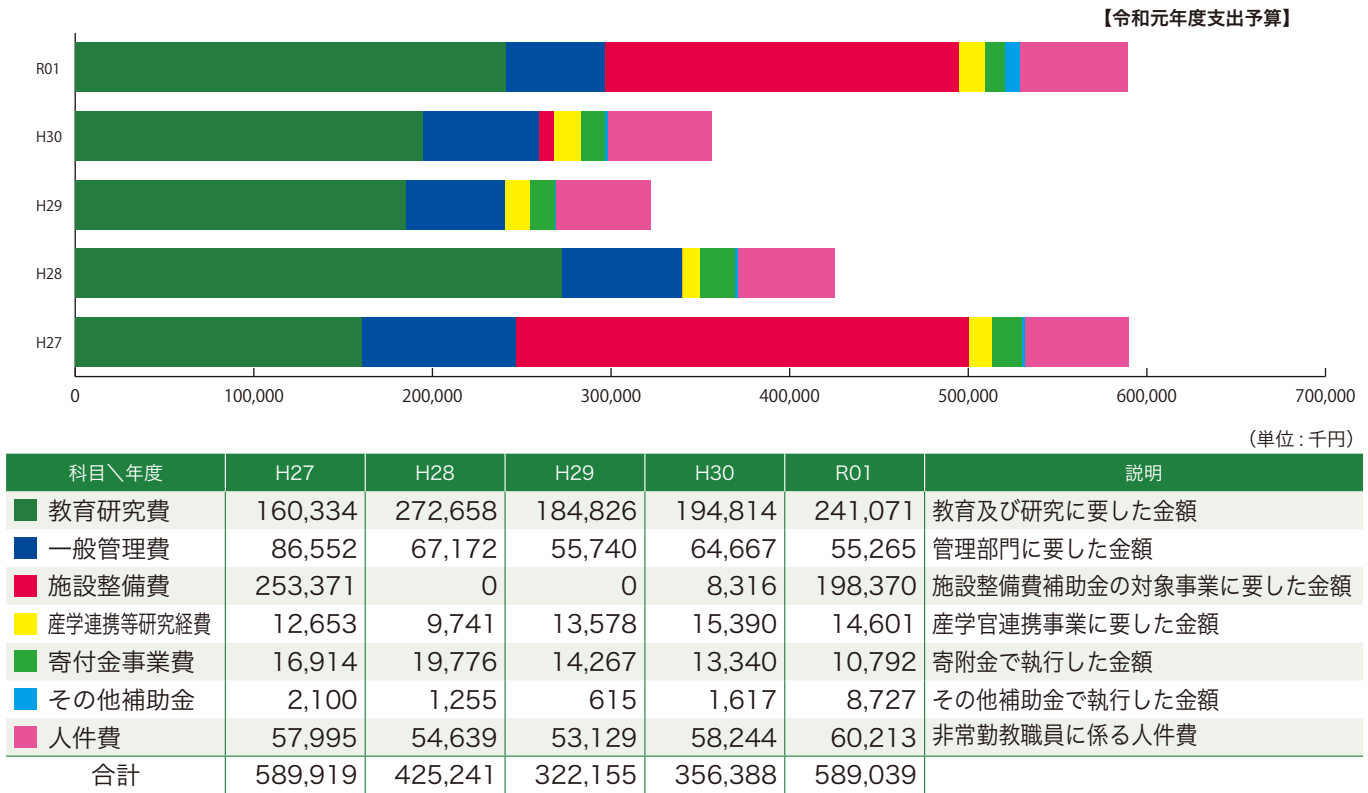
財務状況

1. 収入



※1 平成 27 年度の施設整備費補助金は、屋内運動場等耐震改修及び管理棟改修及び災害復旧費。
※2 平成 28 年度の運営費交付金は、 営繕事業予算を含む。
※3 令和元年度の施設整備費補助金は、一般文科・理科棟改修費等。
※4 常勤教職員の人件費については、(独) 国立高等専門学校機構本部の収入予算に計上しているため上記項目の運営費交付金には含まれていない。

2. 支出



※1 平成 28 年度の研究費には、旧情報処理センター改修、制御情報工学科棟外空調設備、学生寮便所改修に係る費用を含む。
※2 常勤教職員の人件費については、(独) 国立高等専門学校機構本部の支出予算に計上しているため上記項目の人件費には含まれていない。

施設状況

1. 保有不動産

(1) 土地

総面積	校舎・学寮等敷地				職員宿舎
	校舎等	屋外運動場	学生寮	計	
101,592㎡	69,157㎡	25,649㎡	4,800㎡	99,606㎡	1,986㎡

(2) 建物

区分	名称	構造	延面積 (㎡)	区分	名称	構造	延面積 (㎡)
校舎等施設	機械・材料システム工学科棟	R4	2,799	校舎等施設	中央ボイラー室	R1	151
	D1・D2 講義室	R1	180		物品庫	B1	32
	D3・D4 講義室	R1	370		燃料庫	B1	20
	ものづくり教育センター	R2	1,939		変電室	R1	79
	熱・材力実験棟	R2	601		事務部倉庫	R1	54
	流体実験室	R2	264		記念館	R1	252
	材料実習棟	R2	405	校舎等施設 小計			20,552
	電気電子・制御情報工学科棟	R4	2,720	図書館・体育等施設	図書館総合情報センター	R2	1,702
	電気室	R1	38		第一体育館	S1	1,121
	制御情報工学科棟	R3	793		第二体育館	RS1	880
	専門教室棟	R3	663		武道場	R 2	450
	生物応用化学科棟	R4	1,605		錬心館 (合宿研修所)	R 2	223
	生物応用化学北別館	S4	521		学生部室	S1	612
	一般教室棟	R3	1,437		弓道場・的場	W1	238
	一般文科・理科棟	R3	1,559		体育器具庫	S1	180
	一般共通棟	R2	419		ウェーブホール	S1	519
	専攻科棟	R3	1,202	図書館・体育施設等 小計			5,925
校舎等施設	総合試作技術教育センター	R1	438	学生寮施設	学生寄宿舎 (筑水寮)	R4	3,002
	生物・化学実験棟	R1	300		学生寄宿舎 2 号館 (筑水寮)	R4	781
	産学民連携テクノセンター棟	R2	413		学生寄宿舎 (つつじ寮)	R3	578
	管理棟	R2	1,156	学生寮施設 小計			4,361
	守衛室	R1	20	職員宿舎施設	職員宿舎 (7 戸)	W1	581
	車庫	R1	122	総 計			31,419

2. 各種施設

(1) ウェーブホール

「学生が怒涛のごとく攻める様子」をイメージして名付けられたこの施設は、学生・教職員の憩いの場として、カフェテリアレストラン、売店、自販機コーナー、ラウンジを備えており、文化部の活動紹介や講演会等の場としても活用されています。



ウェーブホール内の食堂



ウェーブホール内の売店



ウェーブホール外観

(2) 記念館

旧制の久留米高等工業学校の設立から数えて 40 周年を迎えたのを記念して、本校同窓会久留米工業会により建設され、本校に寄贈された施設で、会議室、展示室、和室を備えています。

展示室には本校の歴史的資料が展示されており、和室は茶道部や華道部等の活動場所としても活用されています。



記念館内の和室

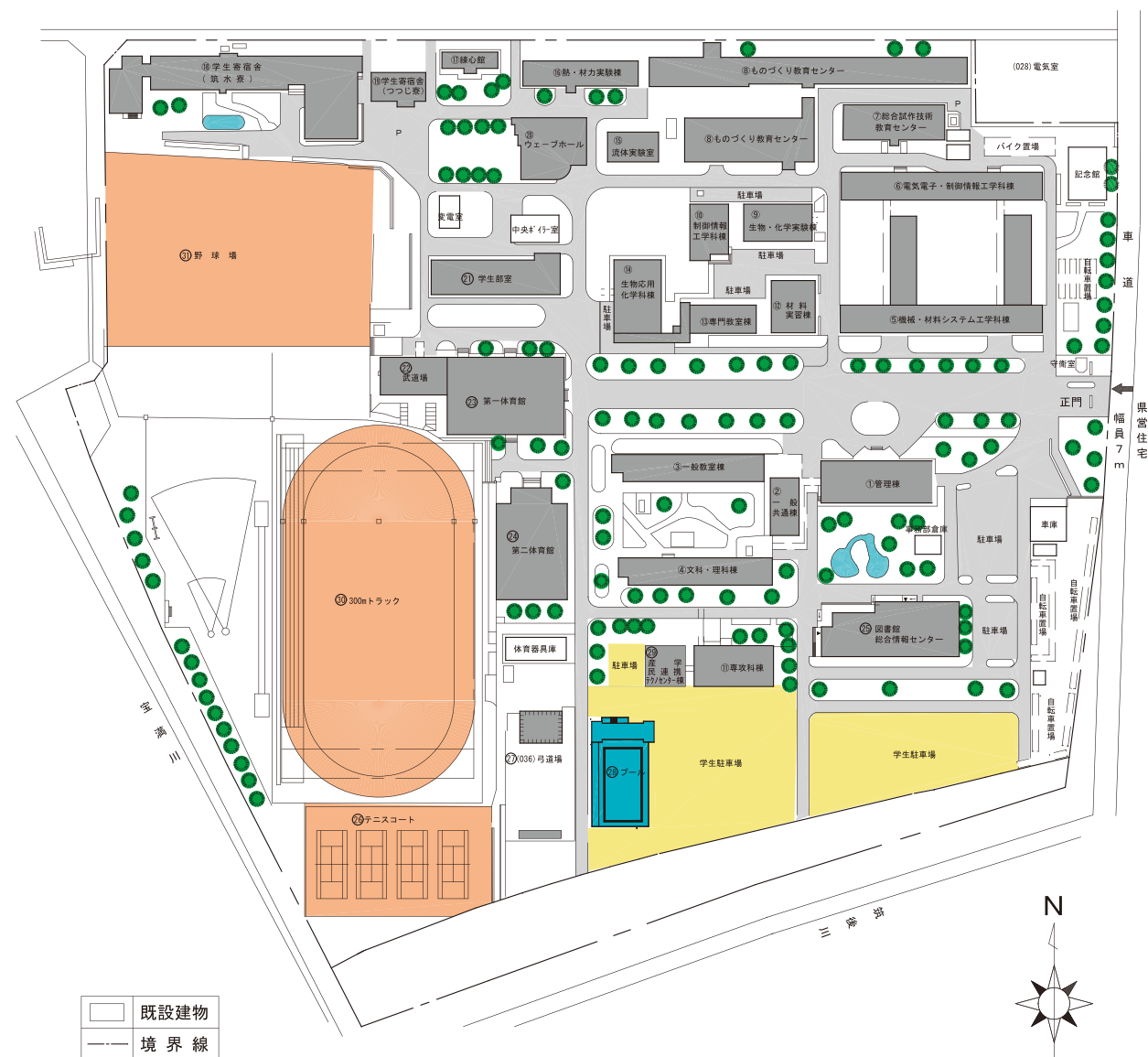


記念館内の展示品



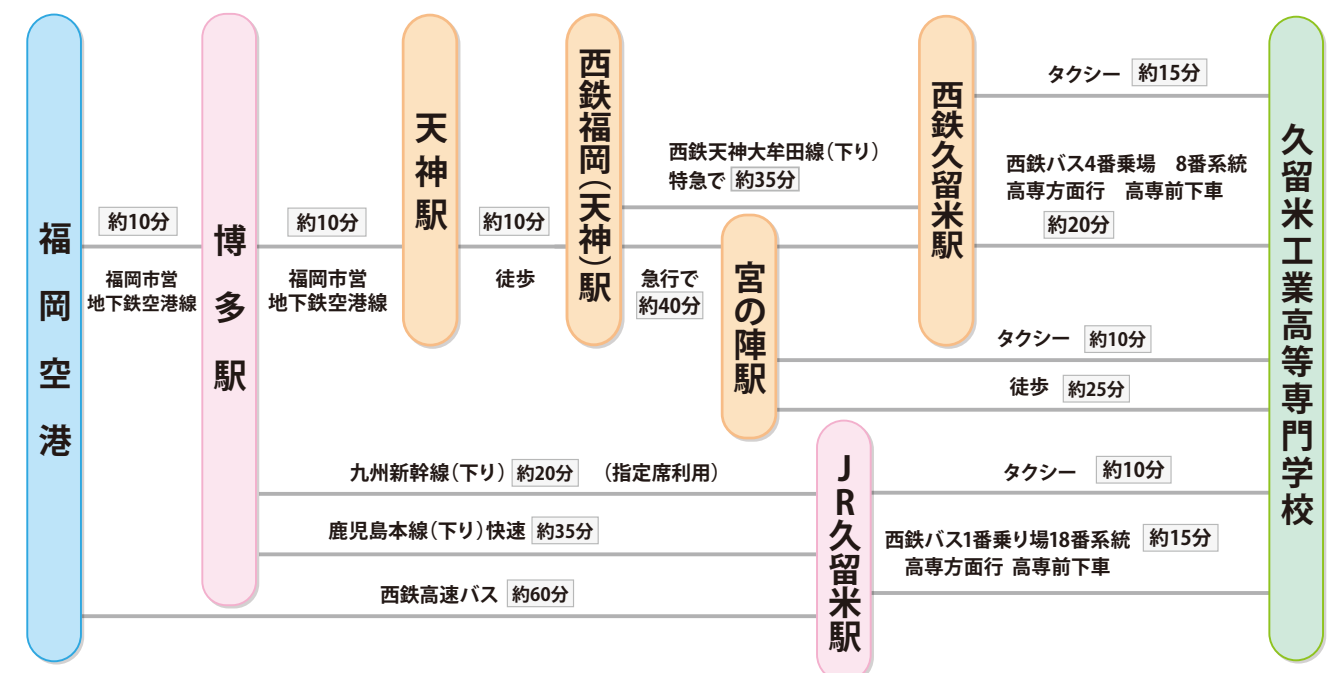
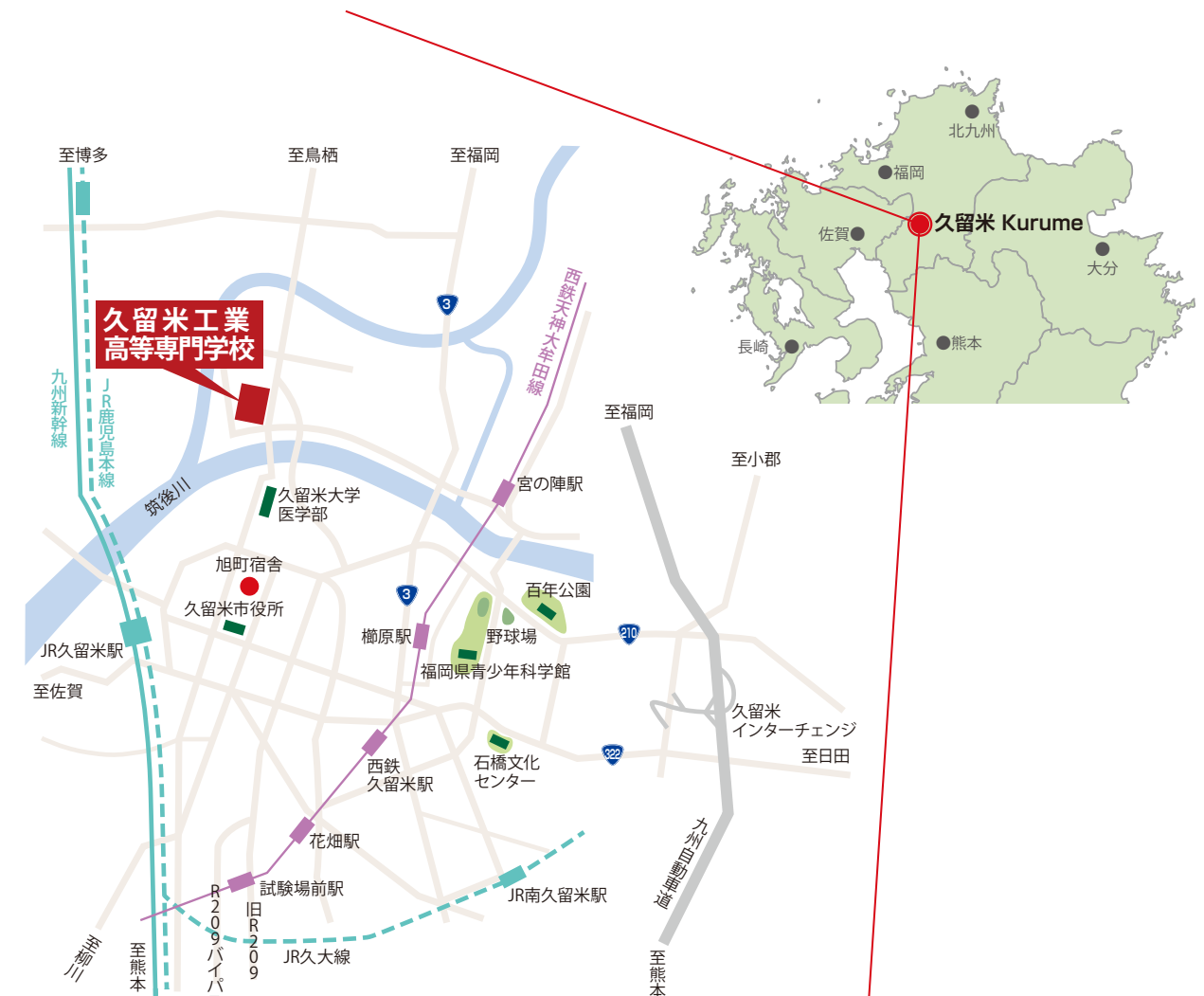
記念館 外観

3. 配置図



- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|
| ① 管理棟 | ⑪ 専攻科棟 | ⑳ 学生部室 |
| ② 一般共通棟 | ⑫ 材料実習棟 | ㉑ 武道場 |
| ③ 一般教室棟 | ⑬ 専門教室棟 | ㉒ 第一体育館 |
| ④ 一般文科・理科棟 | ⑭ 生物応用化学科棟 | ㉓ 第二体育館 |
| ⑤ 機械・材料工学科棟 | ⑮ 流体実験室 | ㉔ 図書館・総合情報センター |
| ⑥ 電気電子・制御情報工学科棟 | ⑯ 熱・材力実験棟 | ㉕ テニスコート |
| ⑦ 総合試作技術教育センター | ⑰ 練心館 | ㉖ 弓道場 |
| ⑧ ものづくり教育センター | ⑱ 学生寄宿舍(筑水寮) | ㉗ プール |
| ⑨ 生物・化学実験棟 | ㉑ 学生寄宿舍(つつじ寮) | ㉘ 産学民連携テクノセンター棟 |
| ⑩ 制御情報工学科棟 | ㉒ ウェーブホール | ㉙ トラック |
| | | ㉚ 野球場 |

アクセス



令和2年度 学 校 要 覧

令和2年7月

独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校 広報委員会

〒830-8555 福岡県久留米市小森野一丁目1番1号

TEL 0942-35-9300（代表） FAX 0942-35-9307

<http://www.kurume-nct.ac.jp/>
